

県民医療意識調査結果

平成29年（2017年） 5 月

長野県健康福祉部

< 目 次 >

I	県民医療意識調査の概要	1
II	調査結果	2
1	調査対象者の性別・年齢構成・地域について	2
2	病気のときに利用する医療機関について	4
3	診療時間外の発病について	9
4	医療に関する相談窓口について	12
5	かかりつけの医師、かかりつけの歯科医師、 かかりつけの薬局について	13
6	医療機関の選択について	22
7	「ながの医療情報Net」「休日夜間医療」について	26
8	医療機関への要望について	27
9	医療機関の役割分担について	29
10	地域に不足している診療科について	30
11	人生の最終段階における医療について	32
12	医療行政について	34
III	自由回答	37

I 県民医療意識調査の概要

1 調査名称

県民医療意識調査

2 調査の目的

県民の保健医療に関する実情や意見を的確に把握・集約することにより、当該結果を第7次長野県保健医療計画に反映させるとともに、安全・安心で質の高い医療提供体制の構築に資するための基礎資料とするものである。

3 調査の対象

18歳以上の長野県民3,000名

(県内対象市町村の選挙人名簿から層化2段無作為抽出法により抽出したもの)

4 調査期間

平成29年2月

5 調査方法

被抽出者への調査票送付によるアンケート方式

6 調査実施機関

長野県(委託先:株式会社総合キャリアオプション)

7 調査項目

保健医療に関する質問27項目

医療圏別回答状況

医療圏	配布数	回答数	回答率
佐久	300	184	61.3%
上小	290	189	65.2%
諏訪	290	177	61.0%
上伊那	280	193	68.9%
飯伊	270	158	58.5%
木曽	170	139	81.8%
松本	450	293	65.1%
大北	190	131	68.9%
長野	540	370	68.5%
北信	220	140	63.6%
合計	3,000	1,974	65.8%

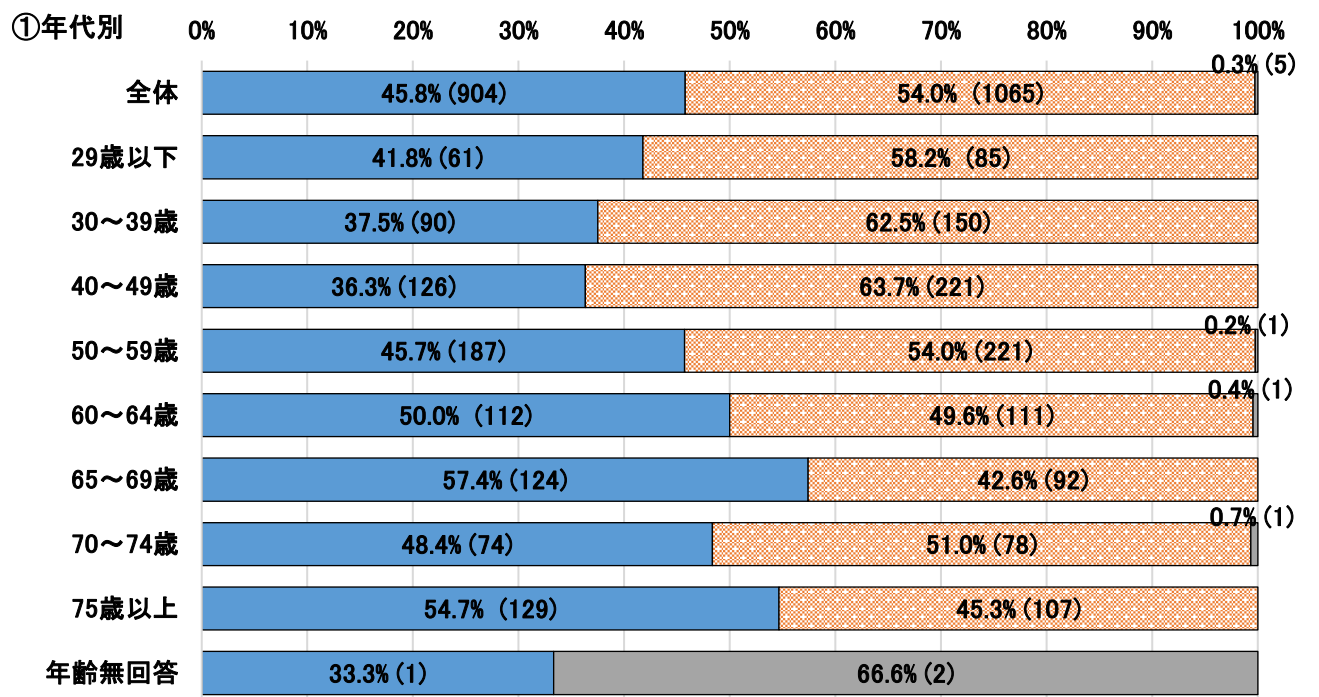
Ⅱ 調査結果

1 調査対象者の性別、年齢構成、地域について

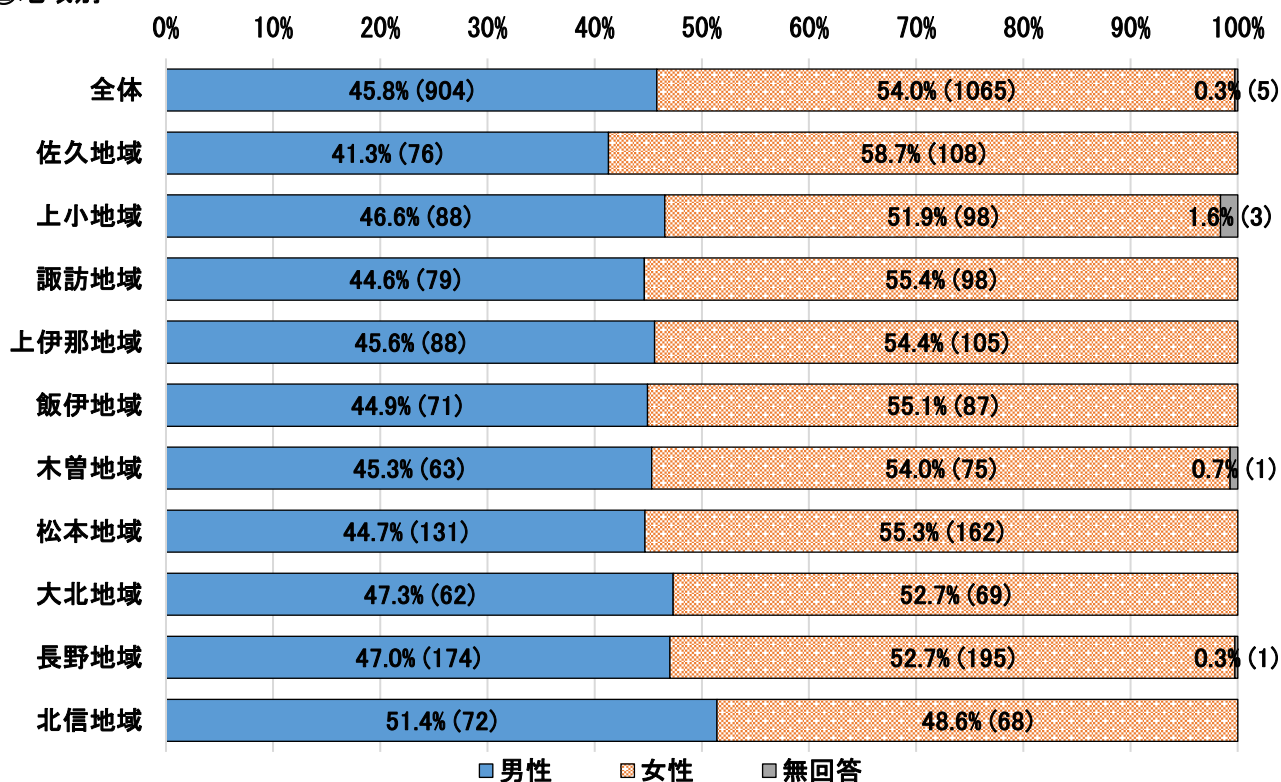
(1) 性別

問1 あなたの性別を、お答えください。

- 全体における男女別の回答割合は、男性 45.8%、女性 54.0%で女性が男性より多くなっている。
- 年代別では、60 歳代と 75 歳以上で男性が女性より多くなっているが、その他の年代は女性が男性より多くなっている。
- 地域別では、北信地域を除くすべての地域で女性が男性より多くなっているが、地域間に大きな差はない。



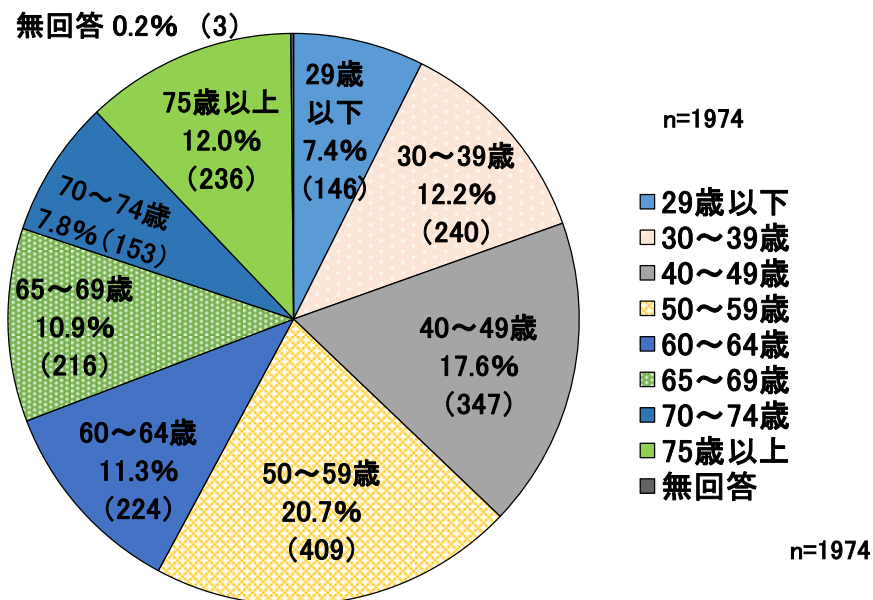
②地域別



(2) 年齢構成

問2 あなたの満年齢を、お答えください。

- 全体の回答状況を年齢構成別に見ると、50歳代が20.7%と最も多く、次いで40歳代の17.6%、30歳代の12.2%と続いている。
- 構成割合の低い年代は、29歳以下の7.4%、70歳代前半の7.8%、60歳代後半の10.9%となっている。



2 病気のときに利用する医療機関について

問4 あなたが、もし体調が少し悪くて医師に診てもらいたいときどうしますか。

○体調が悪い時に受診する医療機関について、約8割(82.7%)の県民が「身近な診療所(医院・クリニック)へ行く」と回答した。一方、「なるべく大きな病院へ行く」と回答した県民は13.5%であり、前回調査の12.8%からわずかに増加した。

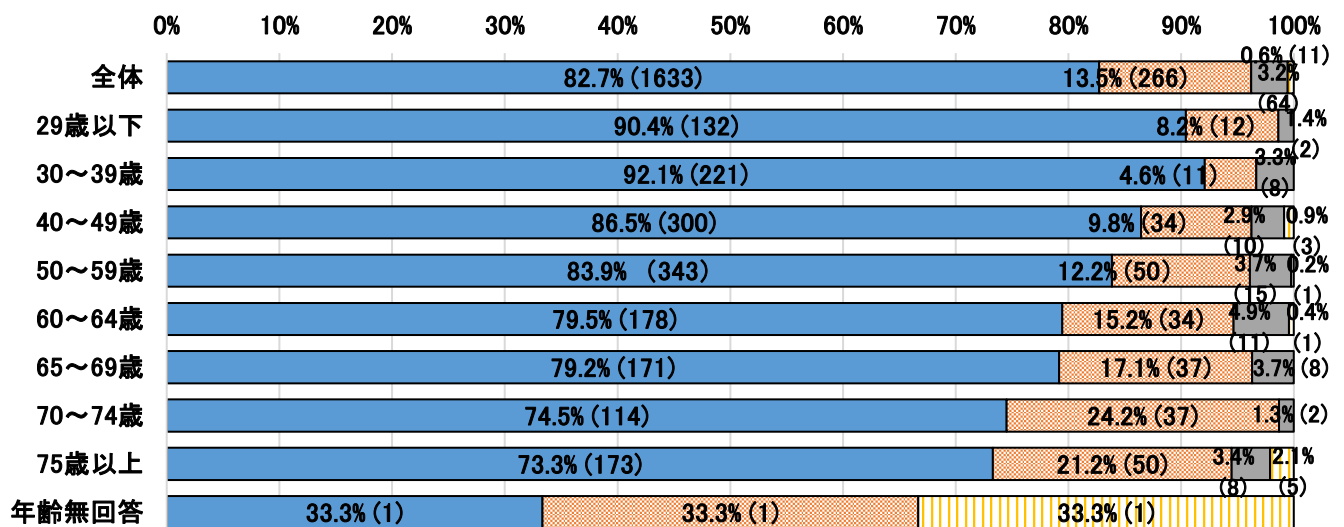
○年代別では、「身近な診療所(医院・クリニック)へ行く」と回答した割合が、30代で92.1%、29歳以下で90.4%となり、若年層で高く、年代が下がるにつれ割合が高くなっている。

また、「なるべく大きな病院へ行く」と回答した割合は、70代前半の24.2%が最も高く、次いで75歳以上の21.2%と、年代が上がるにつれ割合が高くなる傾向がみられる。

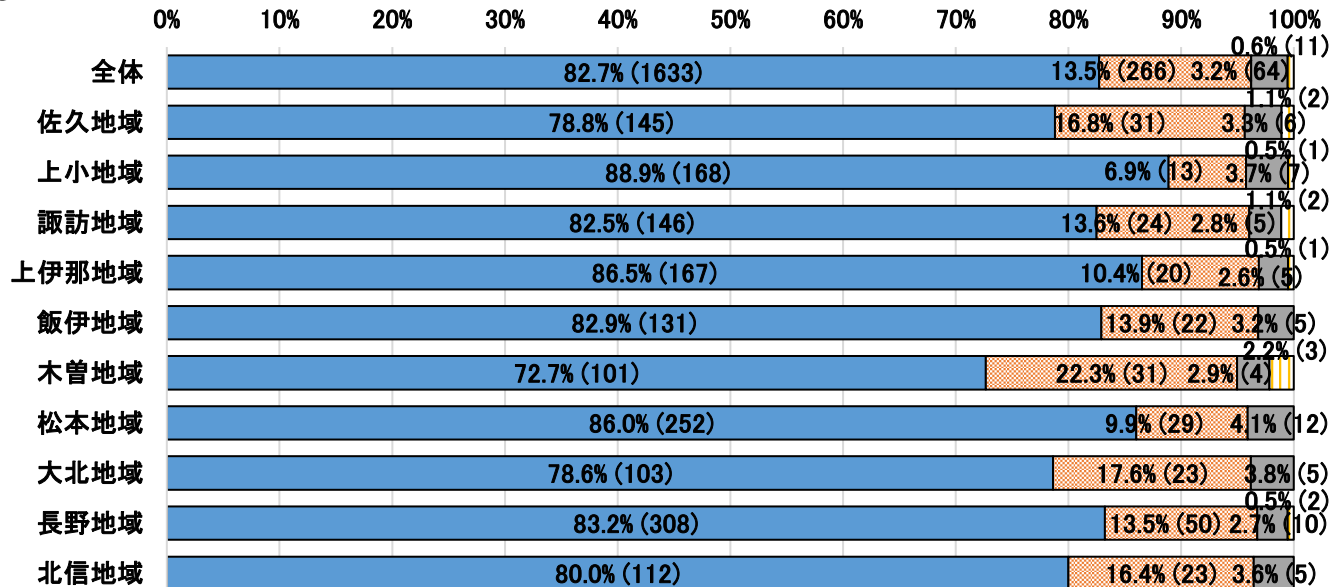
○地域別では、「身近な診療所(医院・クリニック)へ行く」と回答した割合は、上小地域(88.9%)が最も高く、次いで上伊那地域(86.5%)となっている。

また、「なるべく大きな病院へ行く」と回答した割合は、木曽地域の22.3%が最も高く、次いで大北地域の17.6%となっている。

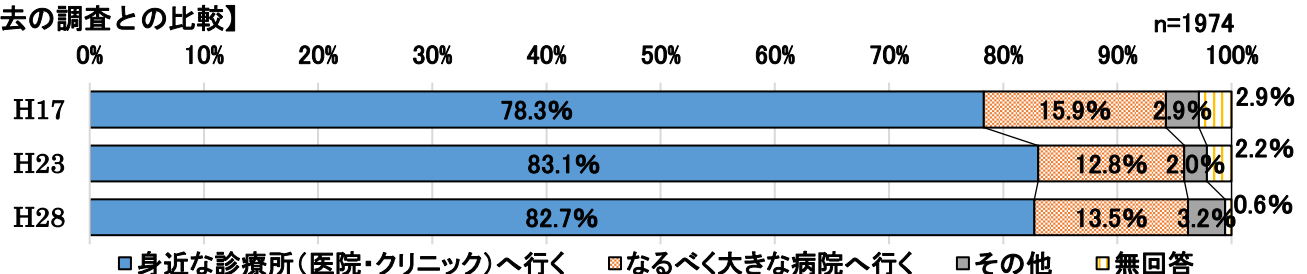
【① 年代別】



【② 地域別】



【③ 過去の調査との比較】

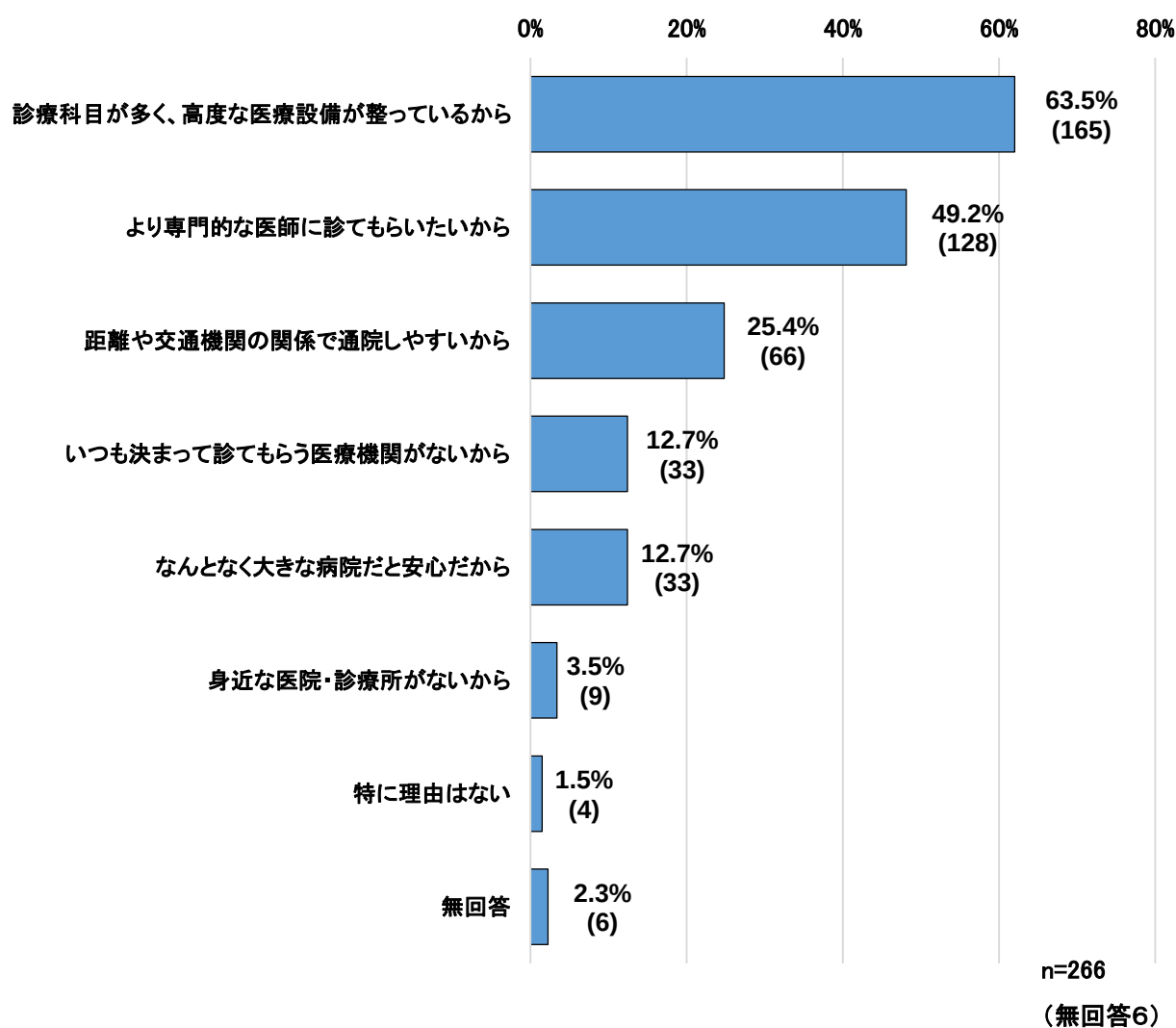


問5 問4で「なるべく大きな病院へ行く」と回答した方にお尋ねします。
その理由は、なぜですか。（複数回答）

○問4で「なるべく大きな病院へ行く」と回答した理由としては、「診療科目が多く、高度な医療設備が整っているから」(63.5%)が最も多く、次いで「より専門的な医師に診てもらいたいから」(49.2%)となっている。

○年代別では、29歳以下を除くすべての年代で「診療科目が多く、高度な医療設備が整っているから」という理由が最も多い。

○地域別では、北信地域を除くすべての地域で「診療科目が多く、高度な医療設備が整っているから」という理由が最も多く、北信地域では「より専門的な医師に診てもらいたいから」が最も多くなっている。



年代別回答割合上位3項目

年代	1 位	2 位	3 位
29歳以下	なんとなく大きな病院だと安心だから、距離や交通機関の関係で通院しやすいから(各 41.7%)		診療科目が多く、高度な医療設備が整っているから(33.3%)
30～39歳	診療科目が多く、高度な医療設備が整っているから、より専門的な医師に診てもらいたいから(各 54.5%)		いつも決まって診てもらう医療機関がないから(27.3%)
40～49歳	診療科目が多く、高度な医療設備が整っているから(56.3%)	より専門的な医師に診てもらいたいから (37.5%)	いつも決まって診てもらう医療機関がないから(28.1%)
50～59歳	診療科目が多く、高度な医療設備が整っているから(70.0%)	より専門的な医師に診てもらいたいから(54.0%)	距離や交通機関の関係で通院しやすいから (16.0%)
60～64歳	診療科目が多く、高度な医療設備が整っているから(67.6%)	より専門的な医師に診てもらいたいから(52.9%)	距離や交通機関の関係で通院しやすいから(23.5%)
65～69歳	診療科目が多く、高度な医療設備が整っているから(71.4%)	より専門的な医師に診てもらいたいから(62.9%)	なんとなく大きな病院だと安心だから (17.1%)
70～74歳	診療科目が多く、高度な医療設備が整っているから(69.4%)	より専門的な医師に診てもらいたいから(55.6%)	距離や交通機関の関係で通院しやすいから(36.1%)
75歳以上	診療科目が多く、高度な医療設備が整っているから(57.1%)	より専門的な医師に診てもらいたいから(40.8%)	距離や交通機関の関係で通院しやすいから(36.7%)

地域別回答割合上位3項目

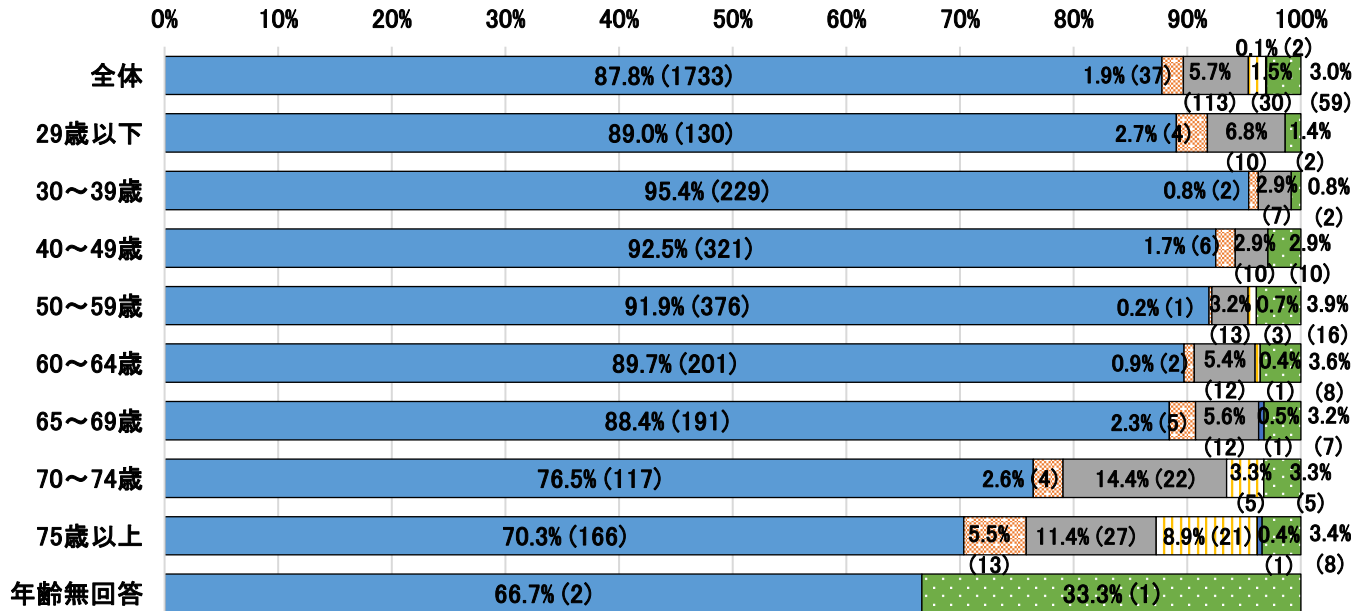
地域	1 位	2 位	3 位
佐久地域	診療科目が多く、高度な医療設備が整っているから(58.1%)	より専門的な医師に診てもらいたいから(54.8%)	距離や交通機関の関係で通院しやすいから(19.4%)
上小地域	診療科目が多く、高度な医療設備が整っているから(76.9%)	より専門的な医師に診てもらいたいから(38.5%)	距離や交通機関の関係で通院しやすいから(23.1%)
諏訪地域	診療科目が多く、高度な医療設備が整っているから(66.7%)	より専門的な医師に診てもらいたいから(50.0%)	距離や交通機関の関係で通院しやすいから(20.8%)
上伊那地域	診療科目が多く、高度な医療設備が整っているから(60.0%)	より専門的な医師に診てもらいたいから(55.0%)	距離や交通機関の関係で通院しやすいから、なんとなく大きな病院だと安心だから(各 15.0%)
飯伊地域	診療科目が多く、高度な医療設備が整っているから(59.1%)	より専門的な医師に診てもらいたいから(54.5%)	距離や交通機関の関係で通院しやすいから(31.8%)
木曽地域	診療科目が多く、高度な医療設備が整っているから(58.1%)	より専門的な医師に診てもらいたいから(45.2%)	距離や交通機関の関係で通院しやすいから(22.6%)
松本地域	診療科目が多く、高度な医療設備が整っているから(58.6%)	より専門的な医師に診てもらいたいから(41.4%)	距離や交通機関の関係で通院しやすいから(27.6%)
大北地域	診療科目が多く、高度な医療設備が整っているから(82.6%)	より専門的な医師に診てもらいたいから(56.5%)	距離や交通機関の関係で通院しやすいから(17.4%)
長野地域	診療科目が多く、高度な医療設備が整っているから(66.0%)	より専門的な医師に診てもらいたいから(44.0%)	距離や交通機関の関係で通院しやすいから(34.0%)
北信地域	より専門的な医師に診てもらいたいから(43.5%)	診療科目が多く、高度な医療設備が整っているから(39.1%)	距離や交通機関の関係で通院しやすいから(26.1%)

問6 医療機関にかかる場合、主にどの通院手段を利用しますか。また、通常の通院手段を利用する際の医療機関までの通院時間はどの程度までなら許容できると思われますか。

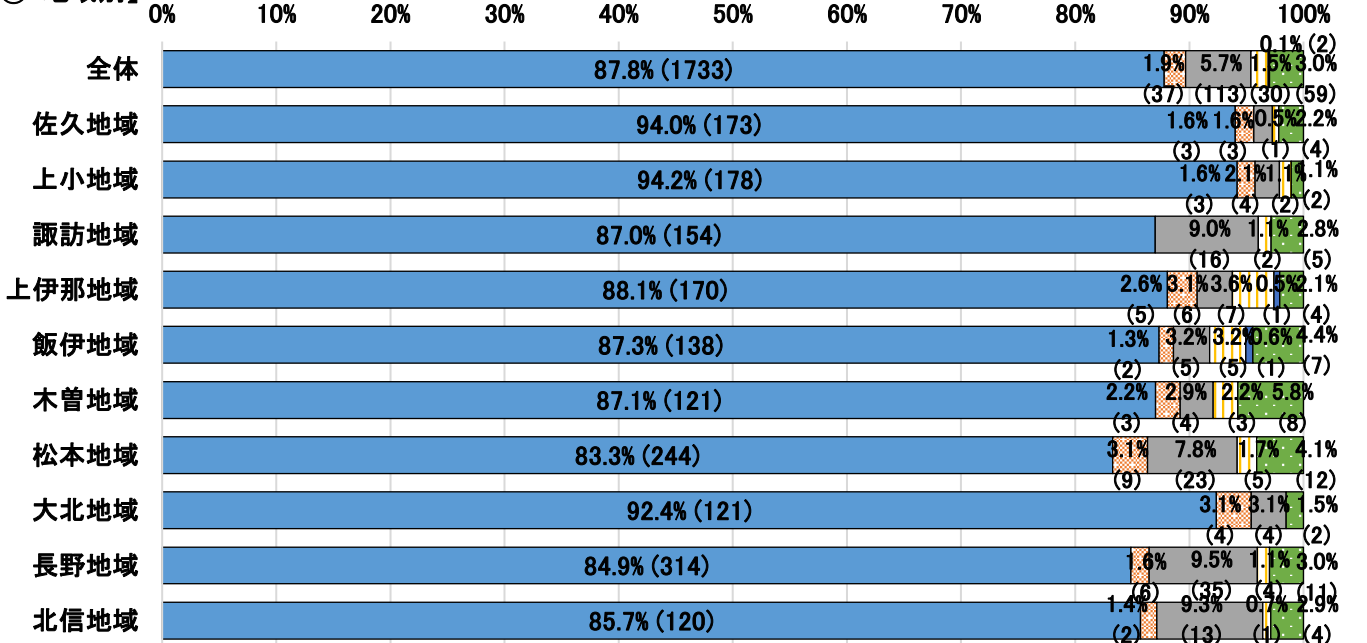
○医療機関までの通常の通院手段は、「自家用車利用」(87.8%)が最も多く、次いで「自転車・徒歩」(5.7%)となっており、各年代及び地域において、大半が自家用車を利用している。
○自家用車で通院時間として許容できる範囲は、「30分程度」(50.3%)が最も多く、次いで「15分以内」(36.4%)となっており、各地域別でも同様の結果となっている。

○医療機関への通院手段

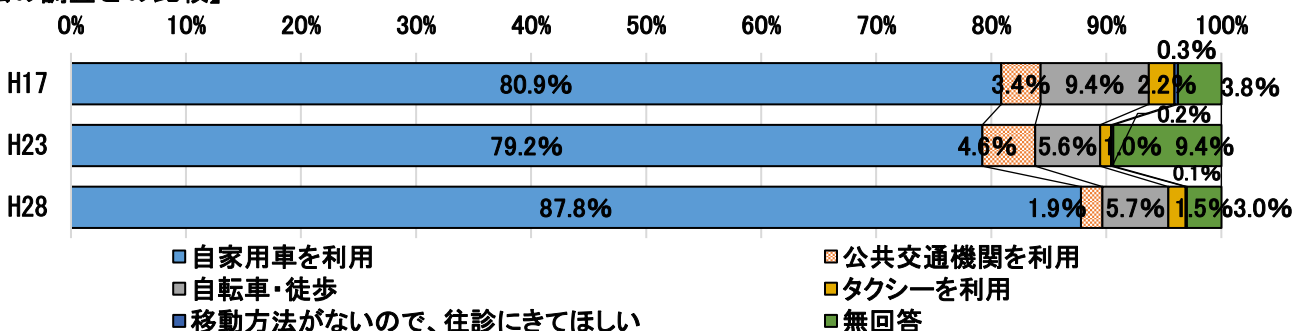
【① 年代別】



【② 地域別】

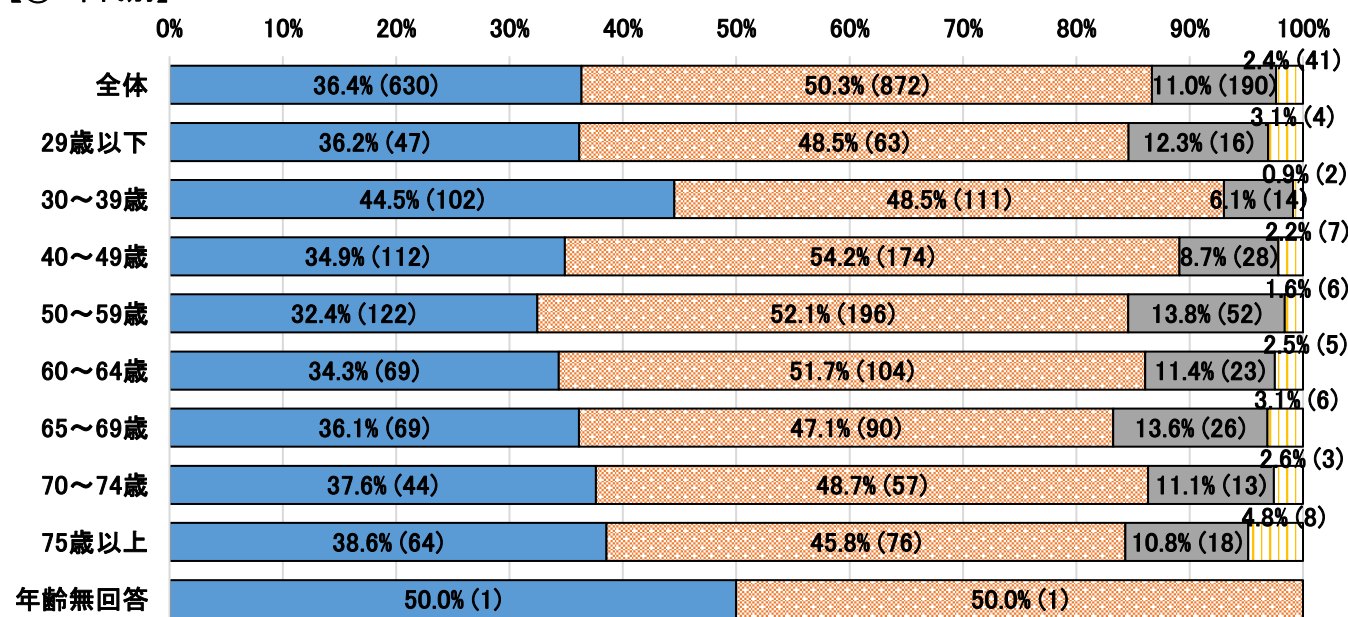


【③ 過去の調査との比較】

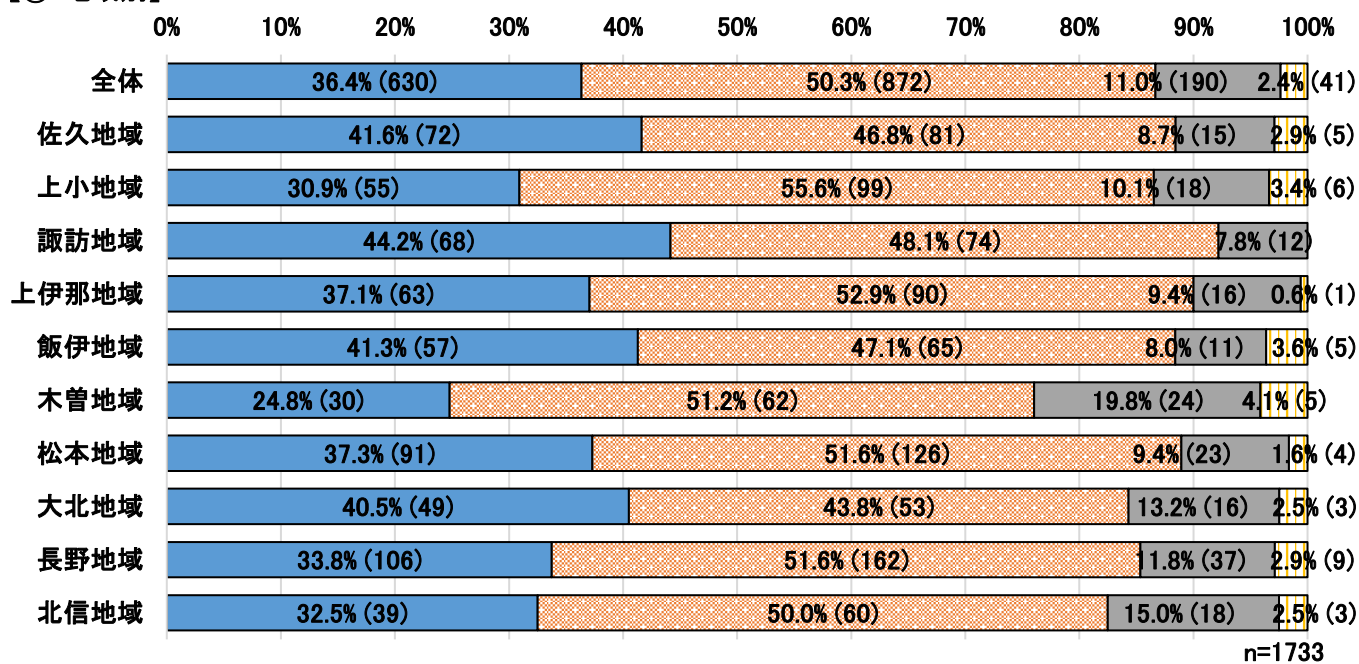


○自家用車で通院時間として許容できる範囲

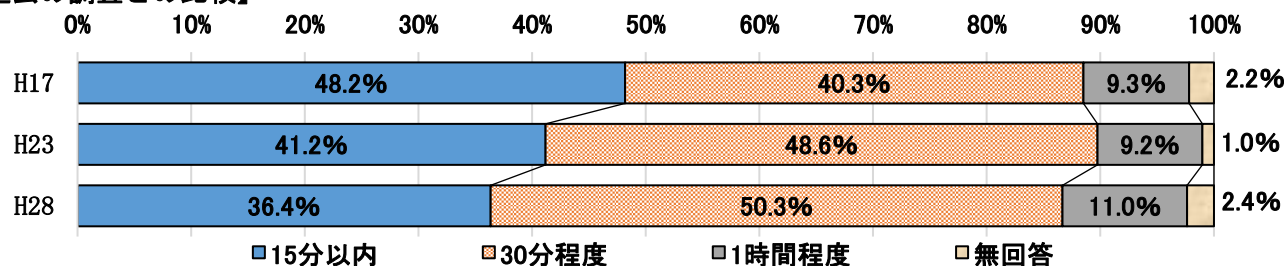
【① 年代別】



【② 地域別】



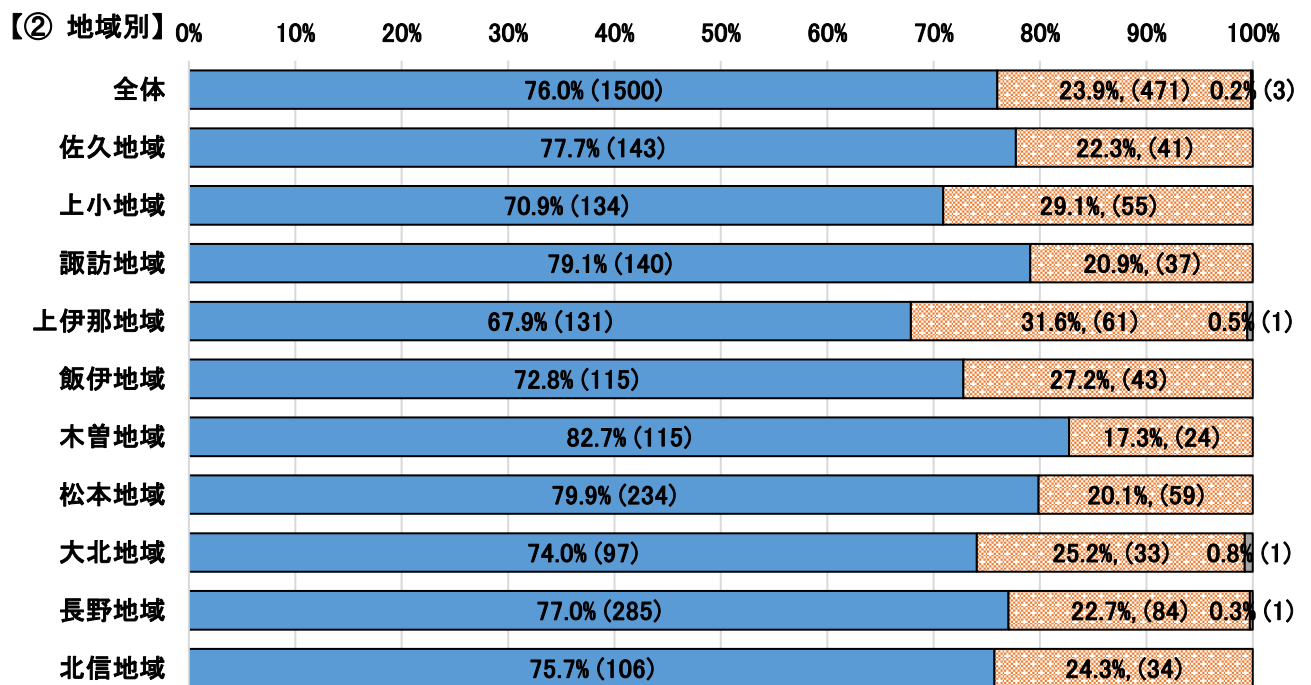
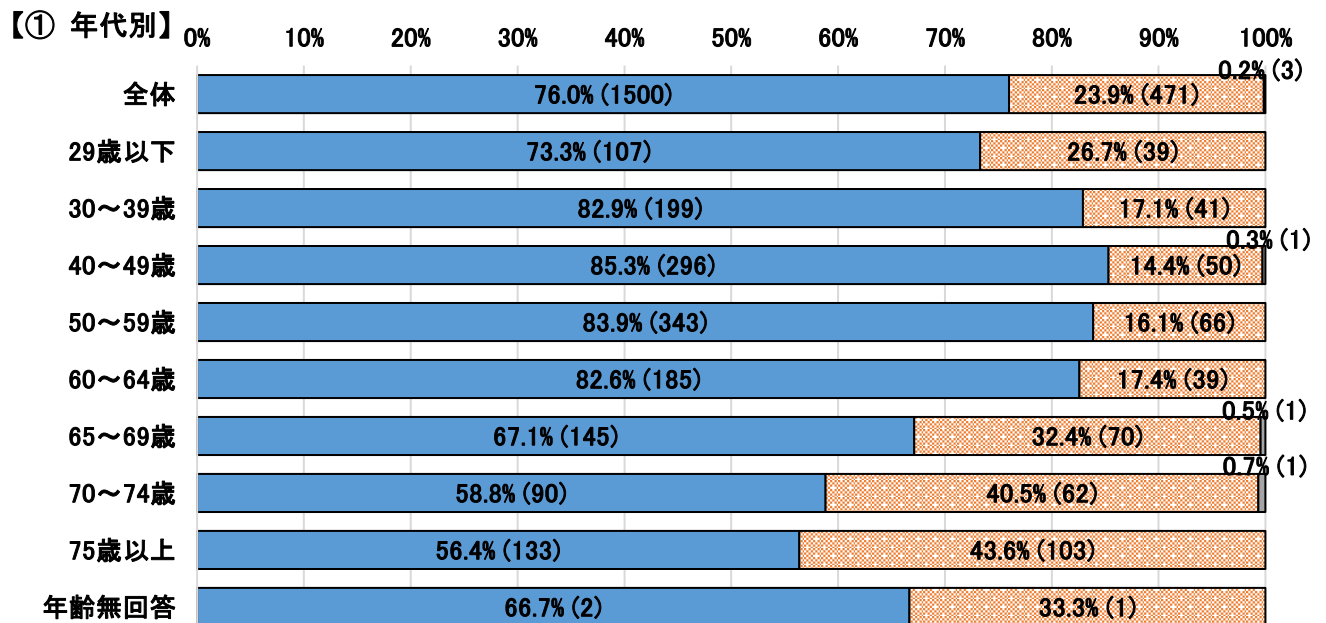
【③ 過去の調査との比較】



3 診療時間外の発病について

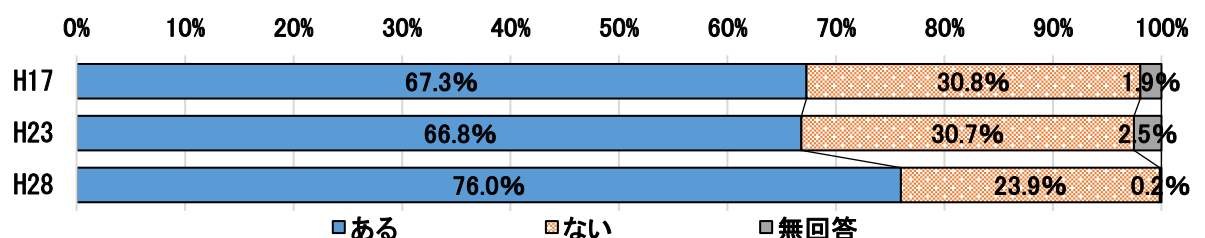
問7 あなたや御家族が、休日や夜間など医療機関が診察していない時間帯に病気になったことがありますか。

- 休日や夜間など医療機関が診察していない時間帯に病気になったことが「ある」と回答した県民の割合は76.0%となっている。
- 年齢別では、「ある」と回答した割合は、40歳代(85.3%)が最も多く、年齢が高くなるにつれ少なくなる。
- 地域別では、「ある」と回答した割合は、木曽地域(82.7%)が最も多く、次いで松本地域(79.9%)となっている。



n=1974

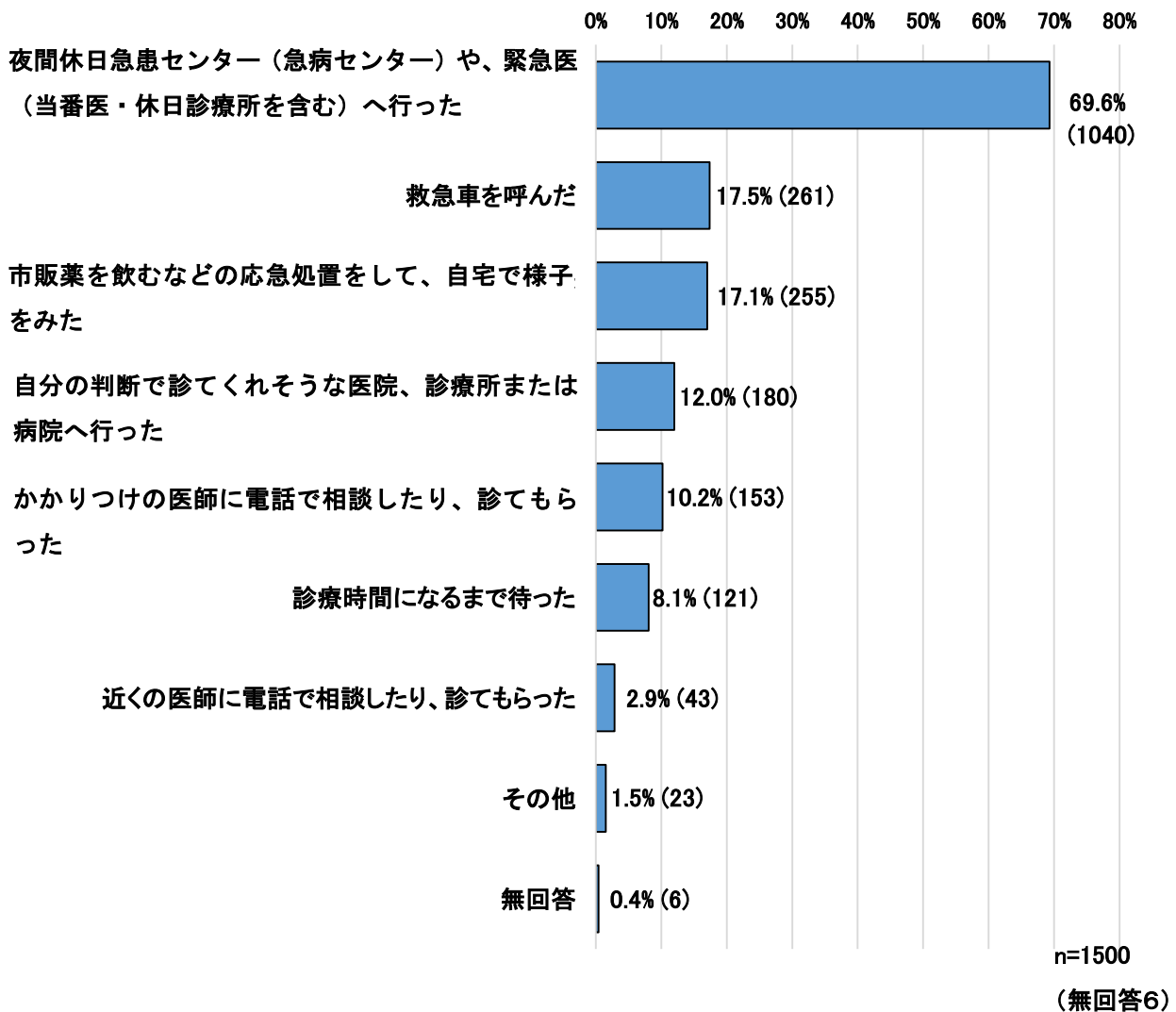
【③ 過去の調査との比較】



問8 問7で「ある」と回答した方にお尋ねします。

その時どのように対応されましたか。(複数回答)

- 医療機関が診察していない時間帯に病気になったときには、「夜間休日急患センター(急病センター)や緊急医(当番医・休日診療所)へ行った」(69.6%)が最も多く、次いで「救急車を呼んだ」(17.5%)、「市販薬を飲むなどの応急措置をして、自宅で様子をみた」(17.1%)となっている。
- 年代別では、全ての年代において「夜間休日急患センター(急病センター)や緊急医(当番医・休日診療所)へ行った」が最も多かったが、50歳以上は「救急車を呼んだ」、40歳代以下は「市販薬を飲むなどの応急措置をして、自宅で様子をみた」が次いで多くなっている。
- 地域別でも、全ての地域において、「夜間休日急患センター(急病センター)や緊急医(当番医・休日診療所)へ行った」が最も多くなっている。



年代別回答割合上位3項目

年代	1 位	2 位	3 位
29歳以下	夜間休日急患センター (67.3%)	市販薬 (25.2%)	診療時間になるまで待った(15.0%)
30～39歳	夜間休日急患センター (83.8%)	市販薬 (25.3%)	診療時間になるまで待った(10.1%)
40～49歳	夜間休日急患センター (76.9%)	市販薬 (23.1%)	自分の判断で診てくれそうな医療機関へ行った (13.6%)
50～59歳	夜間休日急患センター (71.9%)	救急車を呼んだ(17.0%)	市販薬 (13.7%)
60～64歳	夜間休日急患センター (71.4%)	救急車を呼んだ(27.0%)	市販薬 (16.8%)
65～69歳	夜間休日急患センター (60.0%)	救急車を呼んだ(25.5%)	自分の判断で診てくれそうな医療機関へ行った (17.2%)
70～74歳	夜間休日急患センター (64.0%)	救急車を呼んだ(18.0%)	市販薬 (15.7%)
75歳以上	夜間休日急患センター (40.2%)	救急車を呼んだ(33.3%)	かかりつけの医師 (22.7%)

地域別回答割合上位3項目

地域	1 位	2 位	3 位
佐久地域	夜間休日急患センター(68.3%)	市販薬(20.4%)	自分の判断で診てくれそうな医療機関へ行った(14.1%)
上小地域	夜間休日急患センター(66.4%)	救急車を呼んだ(23.1%)	市販薬(20.9%)
諏訪地域	夜間休日急患センター(72.9%)	市販薬(17.9%)	救急車を呼んだ(15.0%)
上伊那地域	夜間休日急患センター(63.4%)	救急車を呼んだ(25.2%)	かかりつけの医師(13.0%)
飯伊地域	夜間休日急患センター(75.4%)	市販薬(21.1%)	救急車を呼んだ、 かかりつけの医師(各 13.2%)
木曽地域	夜間休日急患センター(64.3%)	自分の判断で診てくれそうな医療機関へ行った(22.6%)	救急車を呼んだ(20.0%)
松本地域	夜間休日急患センター(75.0%)	市販薬(21.1%)	救急車を呼んだ(12.5%)
大北地域	夜間休日急患センター(57.3%)	救急車を呼んだ(22.9%)	市販薬・自分の判断(各 18.8%)
長野地域	夜間休日急患センター(38.0%)	自分の判断で診てくれそうな医療機関へ行った(21.8%)	救急車を呼んだ(17.6%)
北信地域	夜間休日急患センター(76.4%)	診療時間(14.2%)	市販薬(13.2%)

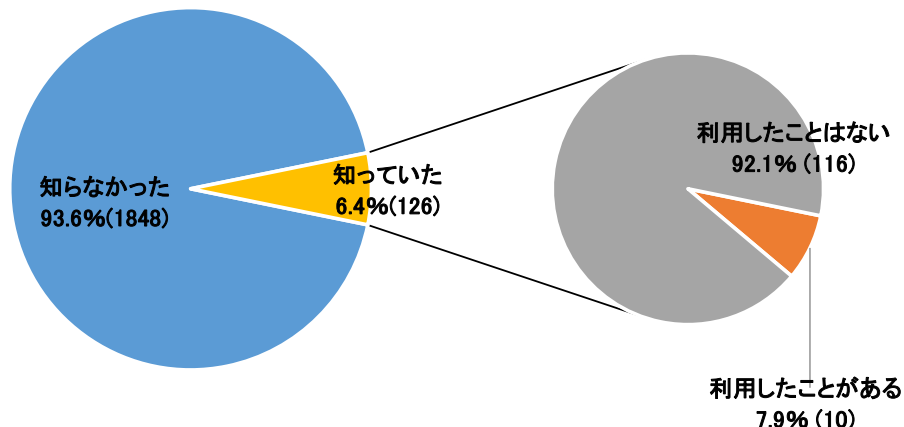
4 医療に関する相談窓口について

問9 医療に関する相談窓口として県庁や保健福祉事務所（保健所）に設置されている「医療安全支援センター」や休日・夜間の急な子どもの病気にアドバイスする「小児救急電話相談（＃8000）」、緊急に精神科医療・相談が必要になったときの相談電話をご存知でしたか。また、利用したことはありますか。

- 相談窓口に対する県民の認知度は、「長野県医療安全センター」(6.4%)、「長野県小児救急電話相談（＃8000）」(14.2%)、「長野県精神障がい者アセスメントセンター」(2.7%)であった。
- 知っていたと回答した人のうち、相談窓口を利用したことがある県民の割合は、「長野県医療安全センター」(7.9%)、「長野県小児救急電話（＃8000）」(25.4%)、「長野県精神障がい者アセスメントセンター」(5.6%)となっている。

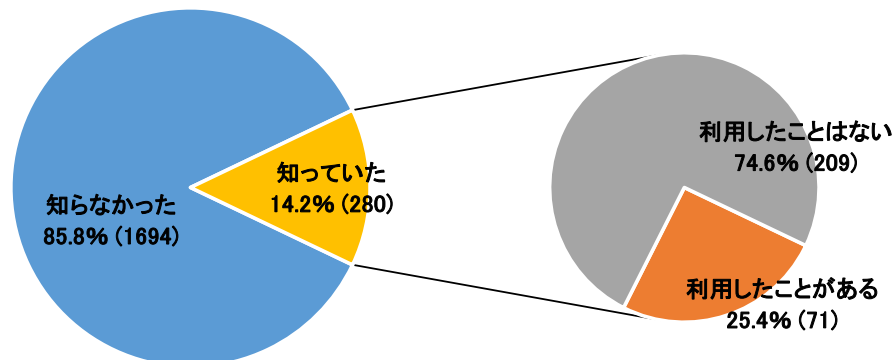
長野県医療安全センター

n=1974



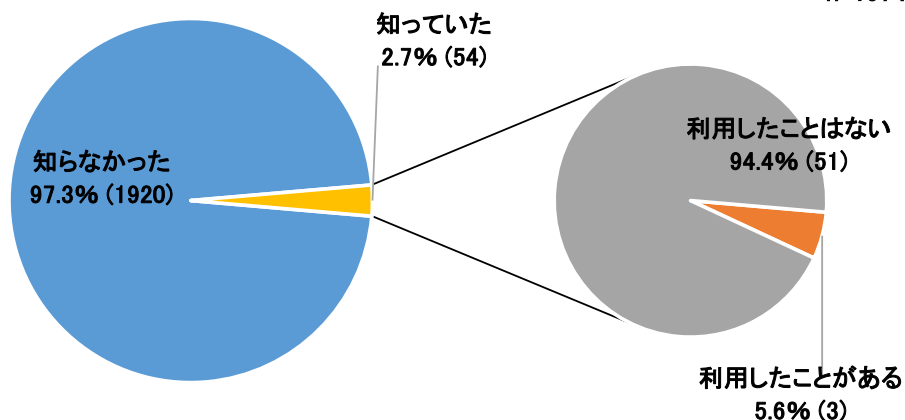
長野県小児救急電話相談(＃8000)

n=1974



長野県精神障がい者在宅アセスメントセンター (旧 長野県精神科救急医療相談電話)

n=1974



5 かかりつけの医師、かかりつけの歯科医師、かかりつけの薬局について

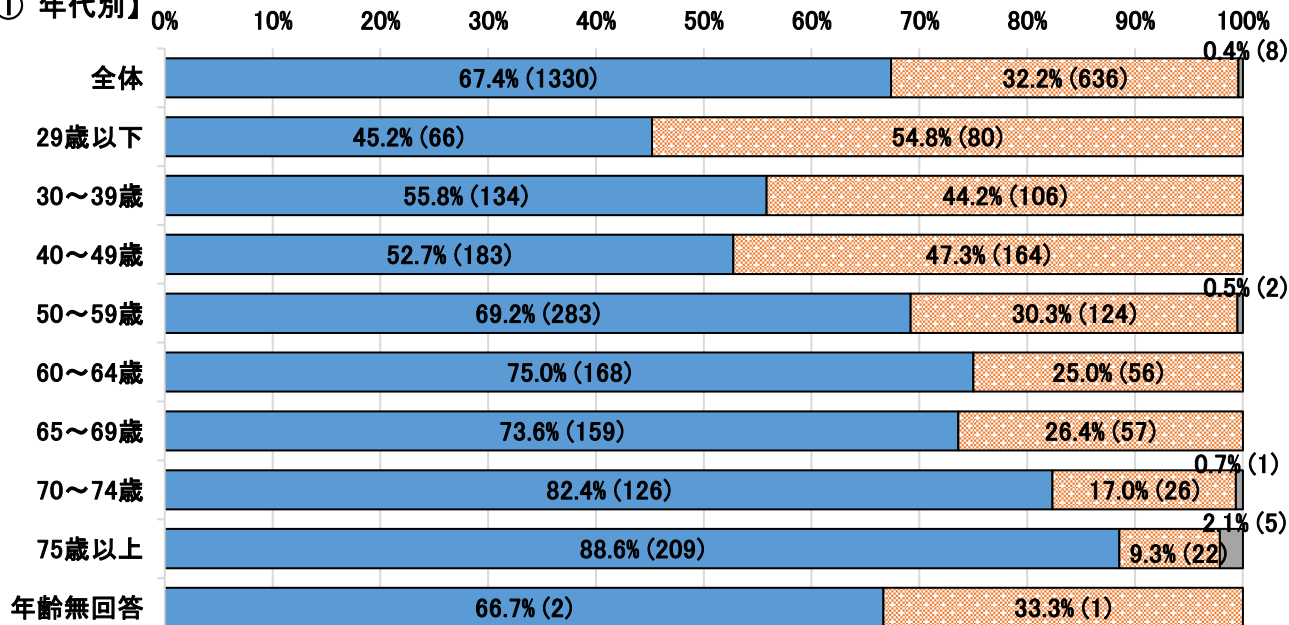
問10 あなたは、かかりつけの医師(病気になったときに決まってみてもらう医師)がいますか。

○かかりつけの医師が「いる」と回答した県民は67.4%で、前回調査の59.6%を上回った。

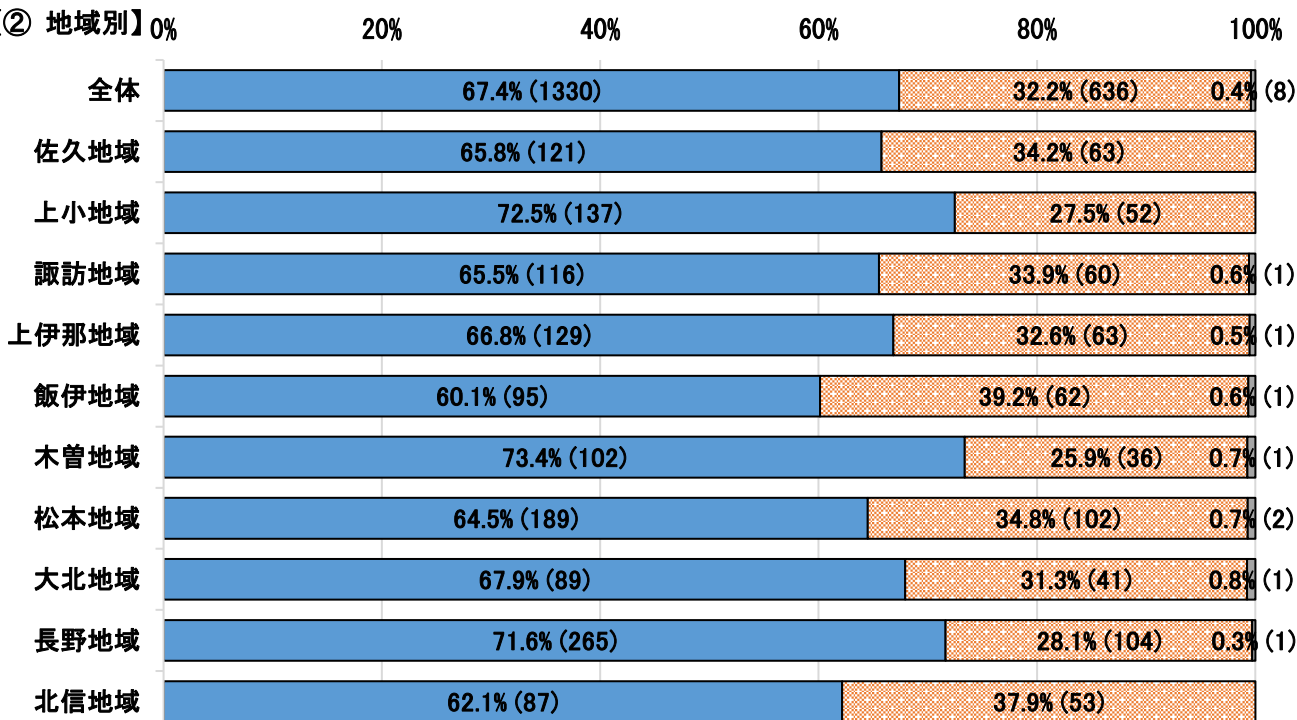
○年代別では、かかりつけの医師が「いる」と回答した割合は、75歳以上(88.6%)が最も多く、年齢が高い層において多くなる傾向がある。

○地域別では、かかりつけの医師が「いる」と回答した割合は、木曽地域(73.4%)が最も多く、次いで上小地域(72.5%)となっている。

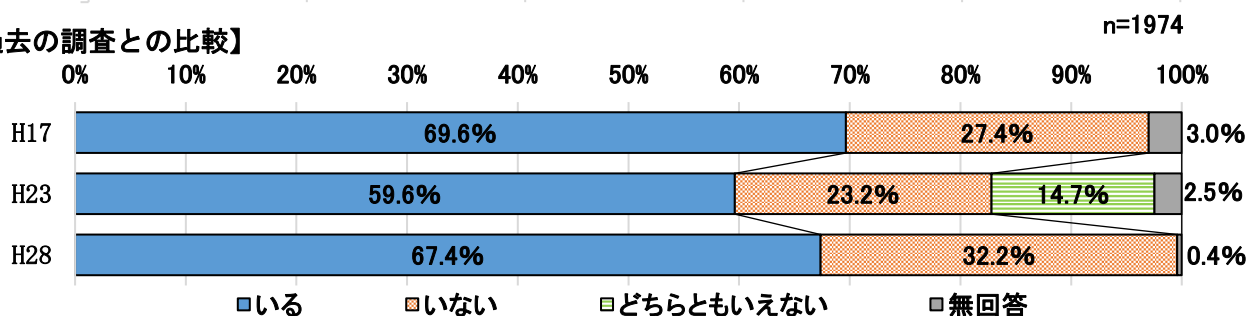
【① 年代別】



【② 地域別】



【③ 過去の調査との比較】



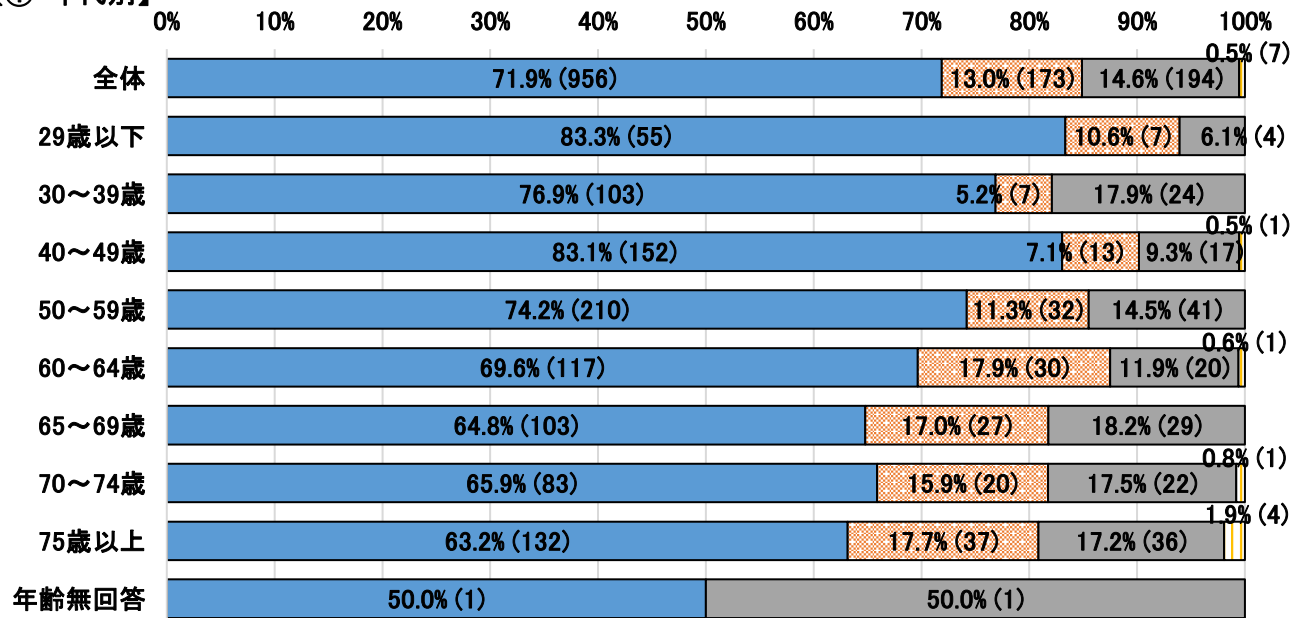
※H23 調査のみ「どちらともいえない」回答肢あり

問 11 問 10 で「いる」と回答した方にお尋ねします。

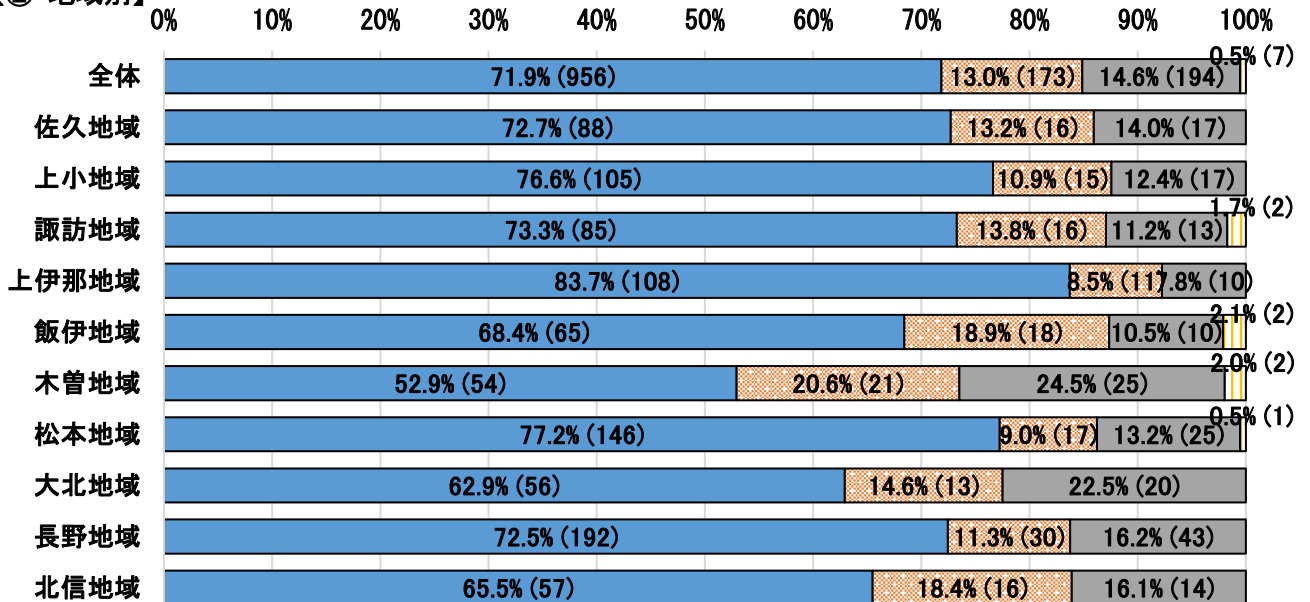
あなたのかかりつけの医師に当てはまるものをお選びください。

- かかりつけの医師としては、「診療所(医院・クリニック)の医師」(71.9%)が最も多く、次いで「診療所と大きい病院の医師を病気によって使い分ける」(14.6%)となっている。
- 年代別では、「診療所(医院・クリニック)の医師」が 20 歳代から 50 歳代で 7 割を超えており、60 歳代以上でも 6 割を超えているが、「大きい病院の医師」が約 2 割と一定の割合を占める。
- 地域別では、「診療所(医院・クリニック)の医師」の割合が上伊那地域(83.7%)で最も多く、次いで松本地域(77.2%)となっている。

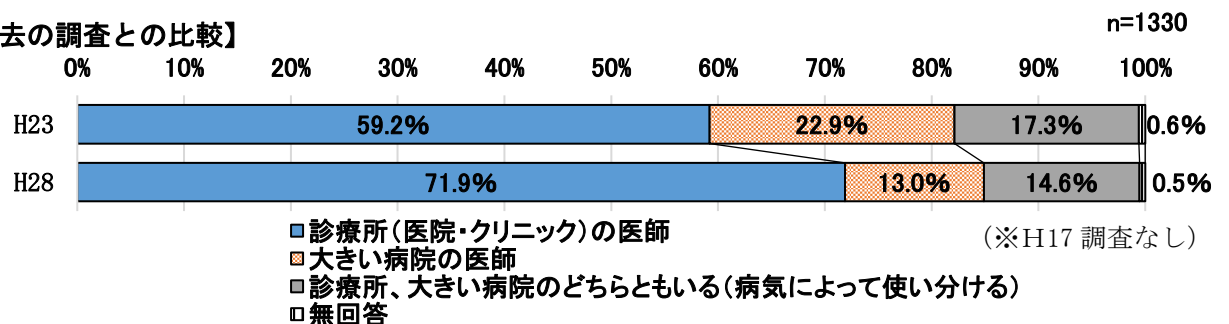
【① 年代別】



【② 地域別】



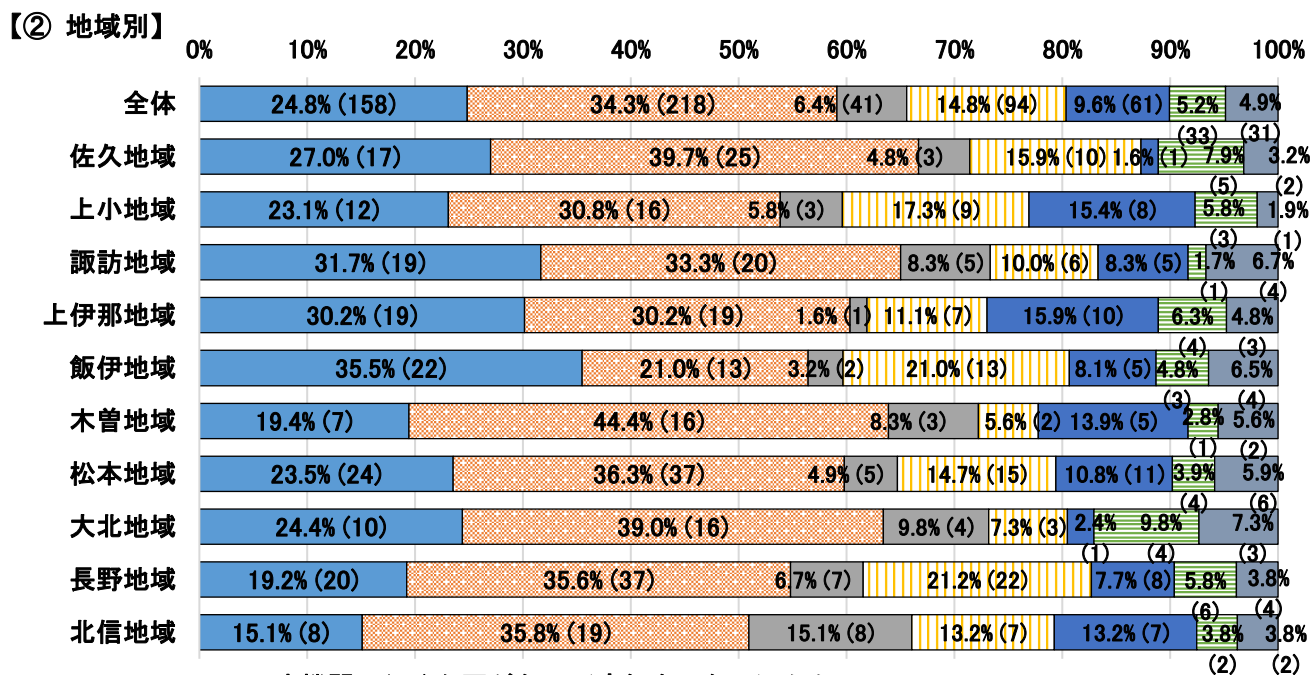
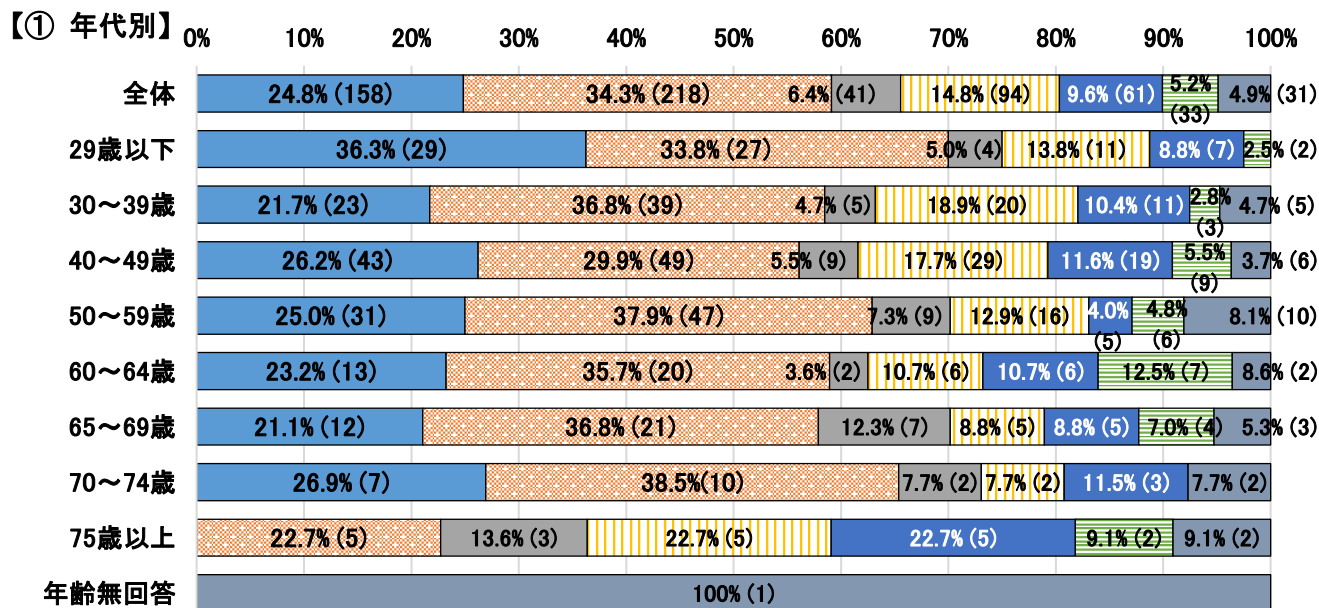
【③ 過去の調査との比較】



問12 問10で「いない」と回答した方にお尋ねします。

かかりつけの医師を持たない理由として当てはまるものをお選びください。

○問10で、かかりつけの医師が「いない」理由としては、75歳以上を除き、「その都度適切な医療機関を選ぶ方がよいと思うから」(34.3%)が最も多く、次いで「医療機関に行く必要がない(病気をしないから)」(24.8%)となっている。

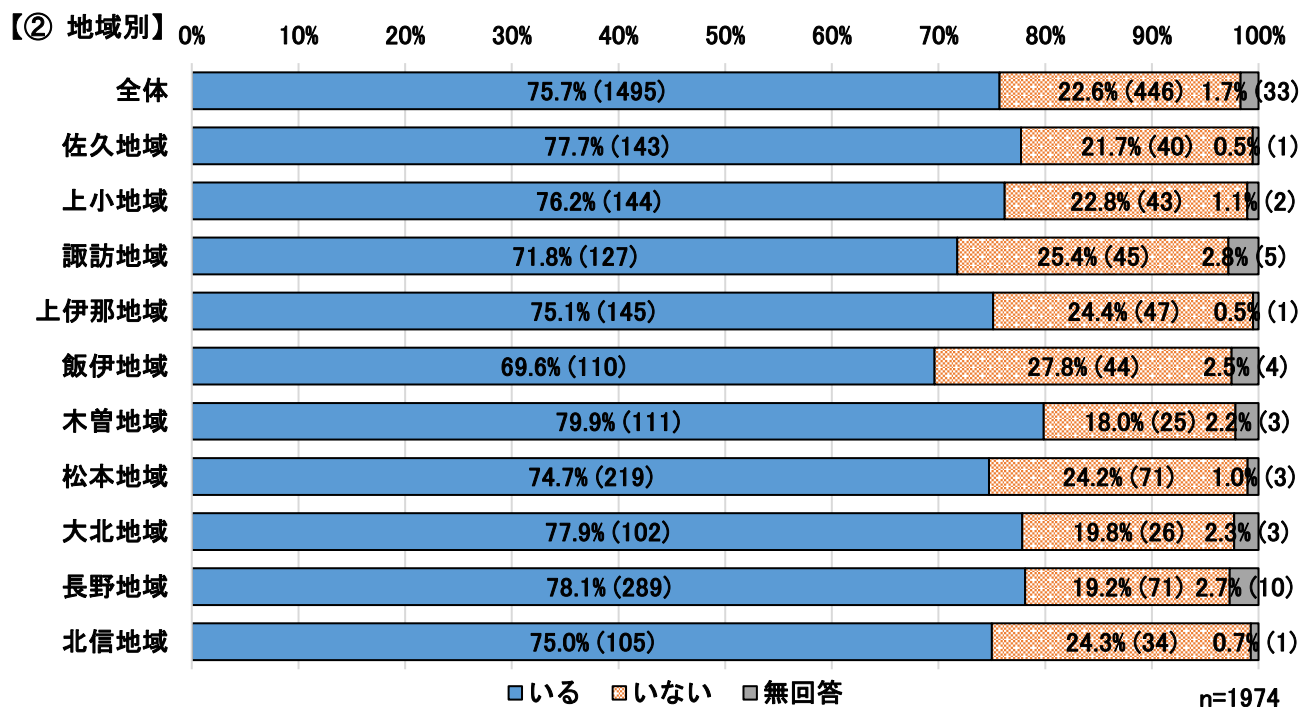
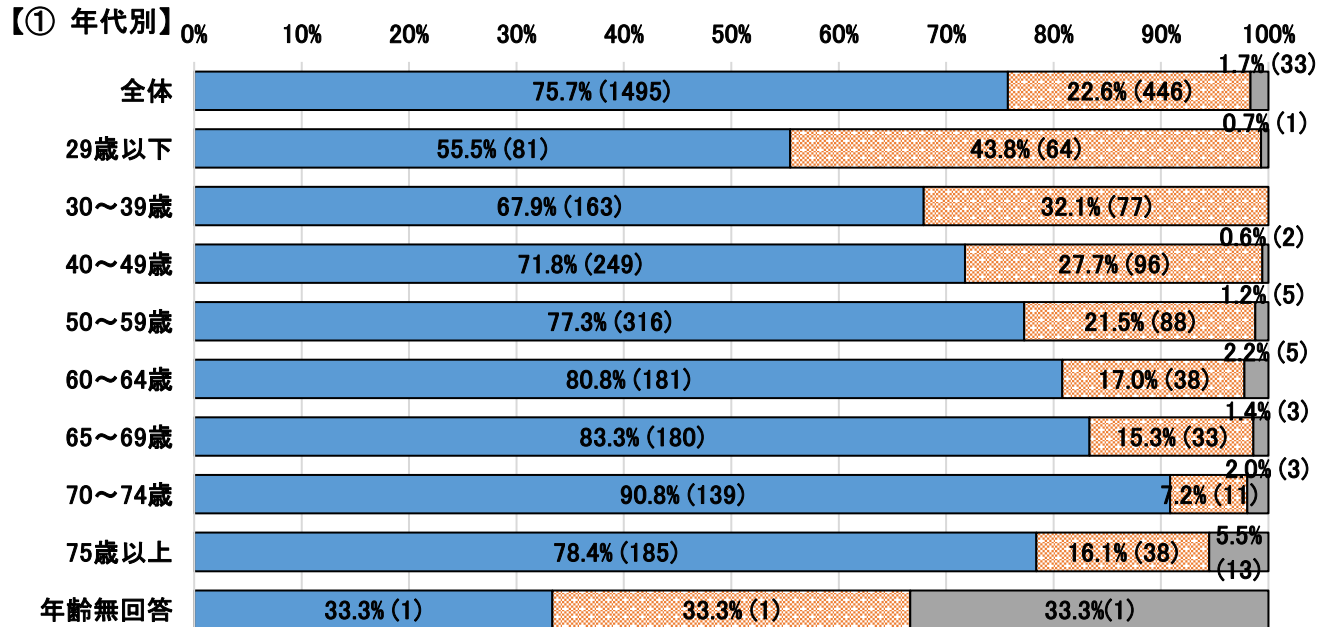


- 医療機関に行く必要がない(病気をしない) から
- その都度適切な医療機関を選ぶ方がよいと思うから
- 近所に適切な医療機関がないから
- かかりつけ医として適切な医療機関をどう探していいかわからないから
- 特にな
- その他
- 無回答

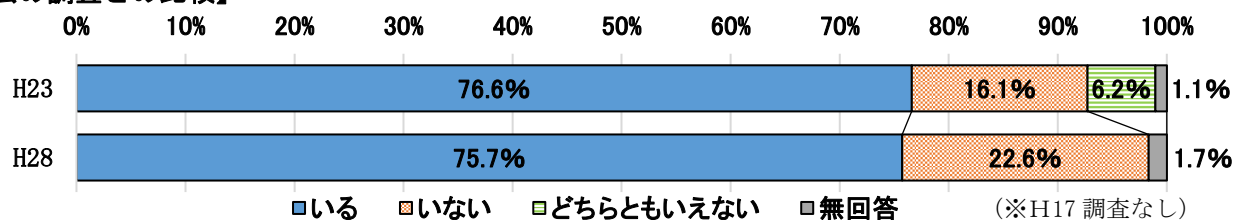
n=636

問13 あなたは、かかりつけの歯科医師（口の中の病気になった時に決まって診てもらう歯科医師）がいますか。

○かかりつけの歯科医師が「いる」と回答した県民は75.7%で、前回調査の76.6%からわずかに減少した。
 ○年代別では、「いる」との回答割合が、70代前半(90.8%)で最も多く、29歳以下(55.5%)で最も低くなっている。
 ○地域別では、「いる」との回答割合が、木曽地域(79.9%)で最も多く、次いで大北地域(77.9%)となっている。



【③ 過去の調査との比較】



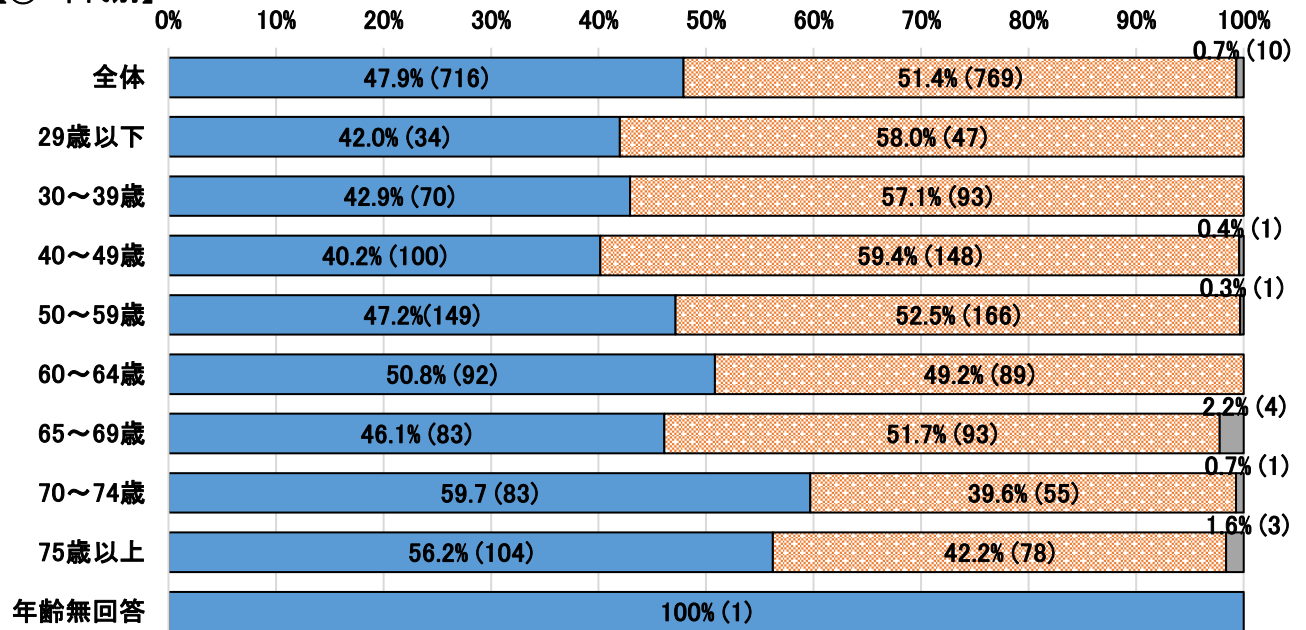
※H23 調査のみ「どちらともいえない」回答肢あり

問14 問13で「いる」と答えた方にお尋ねします。

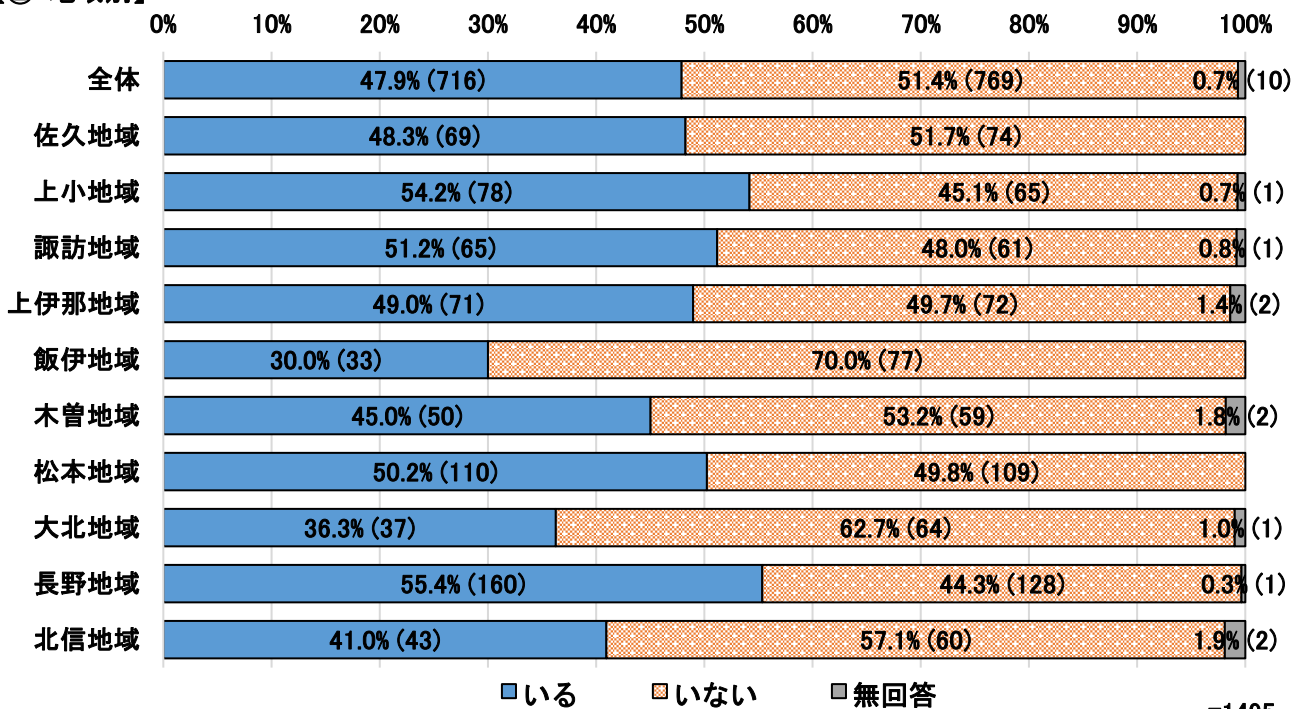
かかりつけの歯科医院で年1回程度の定期的歯科健診（検診）を受けていますか。

- かかりつけの歯科医院で年1回程度の定期的歯科健診（検診）を受けて「いる」割合は、47.9%であり、受けて「いない」割合（51.4%）をわずかに下回った。
- 年代別では、年1回以上定期的歯科健診（検診）を受けて「いる」割合が「いない」割合を上回るのは、60歳代前半（50.8%）、70歳代前半（59.7%）、75歳以上（56.2%）で、高年齢層において多くなっている。
- 地域別では、年1回以上定期的歯科健診（検診）を受けて「いる」割合が、長野地域（55.4%）で最も多く、次いで上小地域（54.2%）となっている。

【① 年代別】



【② 地域別】



■ いる ■ いない ■ 無回答

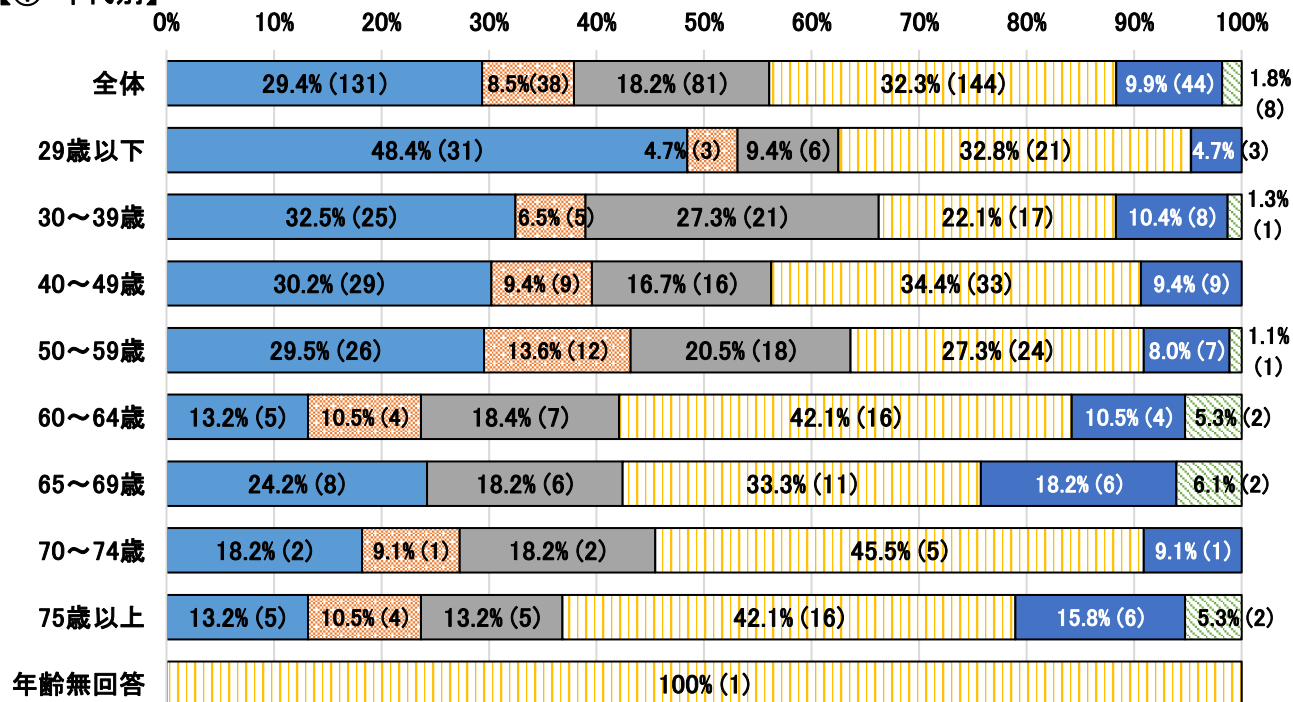
n=1495

問15 問13で「いない」と答えた方にお尋ねします。

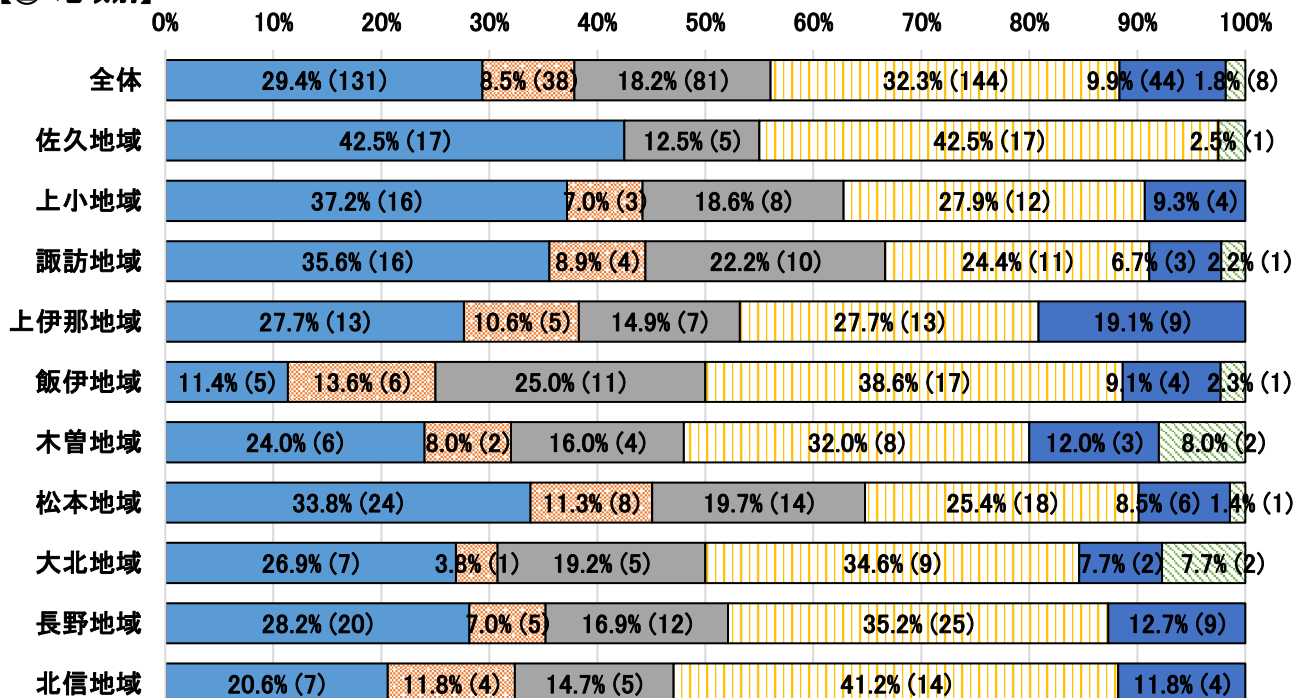
かかりつけの歯科医師を持たない理由として当てはまるものを、お選びください。

○問13で、かかりつけの歯科医師が「いない」理由としては、「特にない」(32.3%)が最も多く、次いで「歯科医院に行く必要がない(口の中の病気にならない)から」(29.4%)となっている。

【① 年代別】



【② 地域別】



□ 歯科医院に行く必要がない(口の中の病気にならない)から

n=446

■ 近所に適切な歯科医院がないから

■ 適切な歯科医院をどう探していいかわからないから

□ 特にない

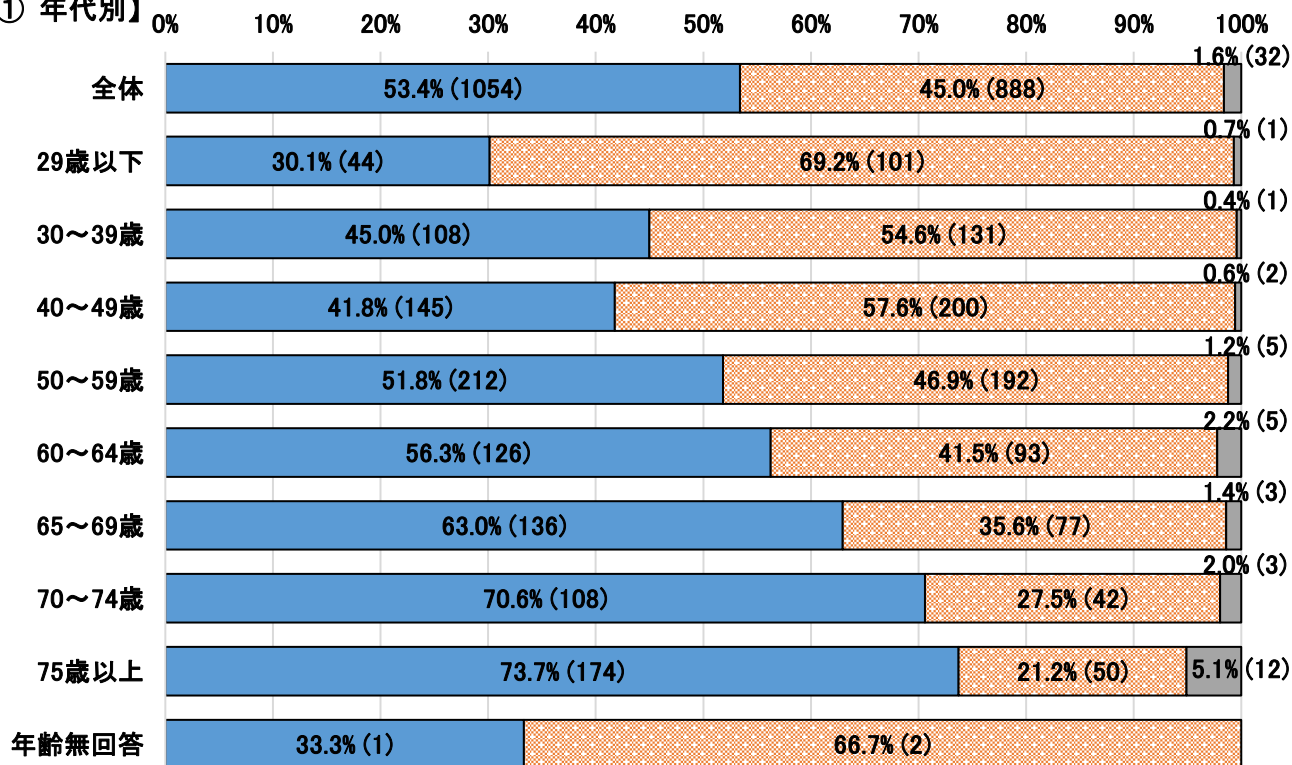
■ その他

■ 無回答

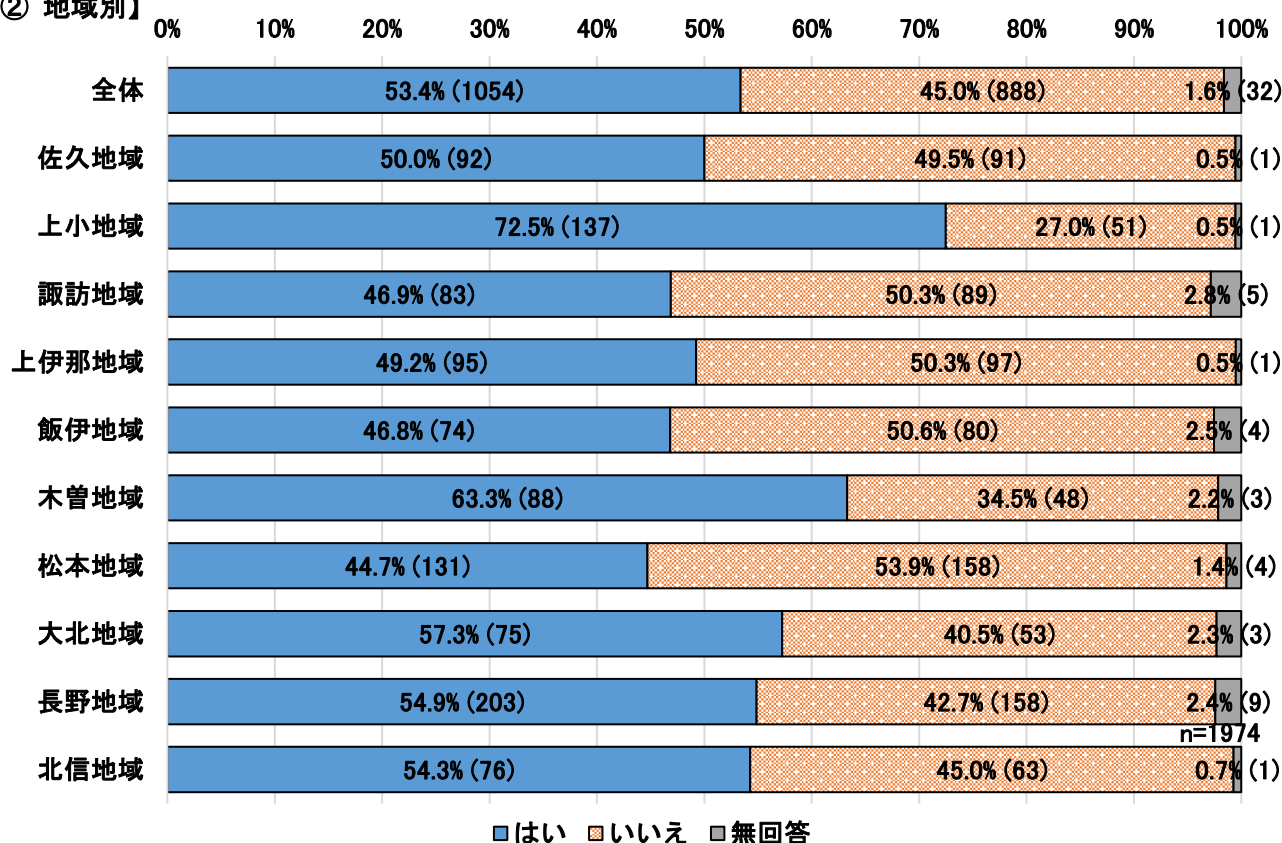
問16 あなたは、かかりつけの薬局（薬や健康のことを気軽に相談できる薬局）をお持ちですか。

○かかりつけの薬局を持っていると回答した県民の割合は53.4%で、持っていないと回答した県民の割合45.0%を上回った。
 ○年代別では、年代が高くなるにつれ、かかりつけの薬局を持つ割合が高い傾向となっている。
 ○地域別では、かかりつけの薬局を持つ割合が、上小地域（72.5%）で最も多く、次いで木曽地域（63.3%）となっている。

【① 年代別】



【② 地域別】

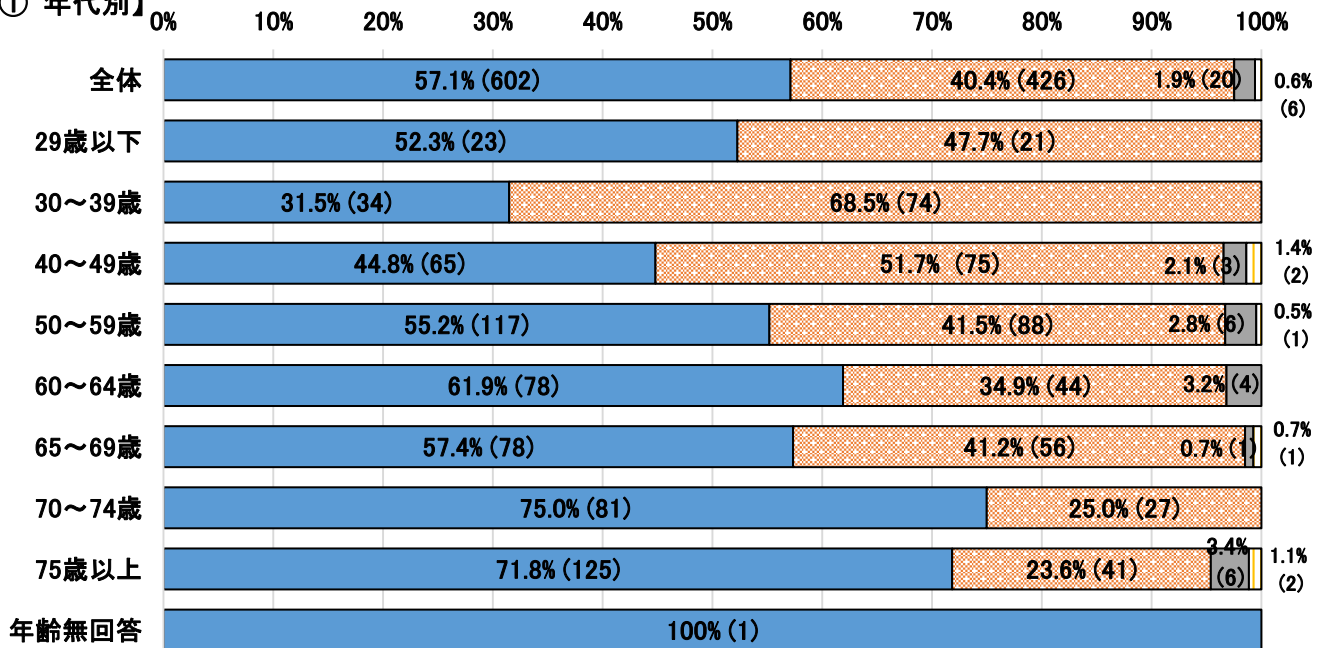


問17 問16で「はい」と答えた方にお尋ねします。

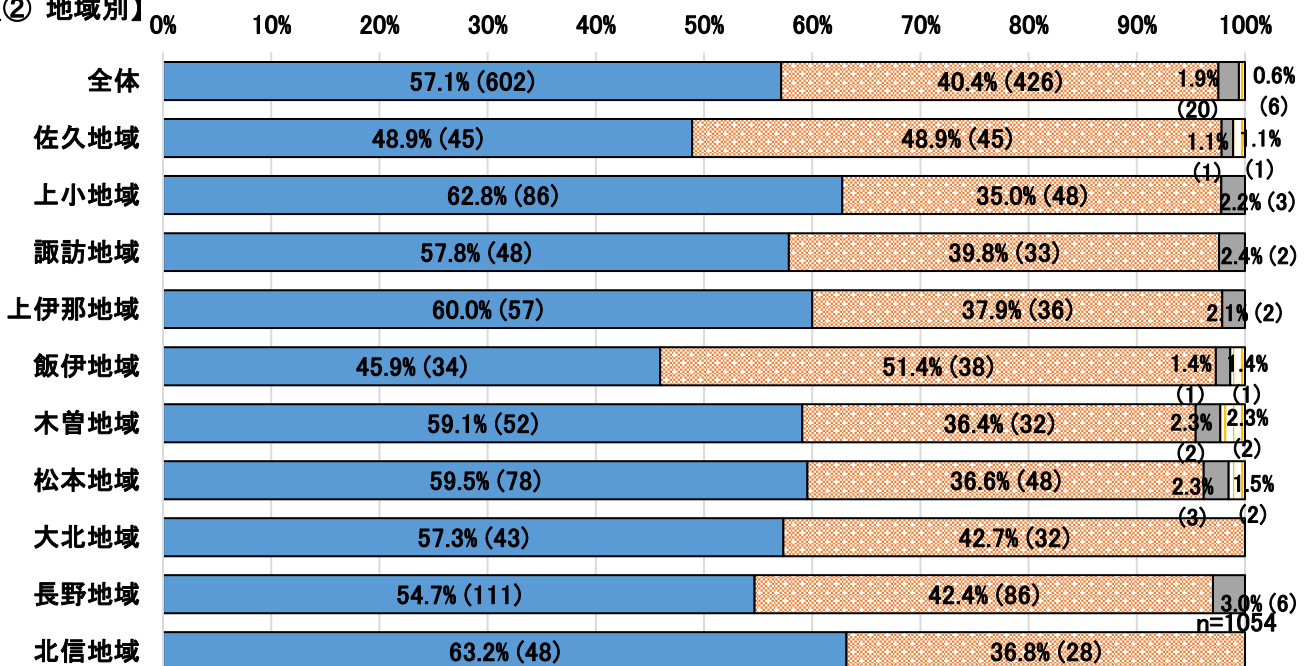
「かかりつけの薬局」に、当てはまるものをお選びください。

- 薬の処方について「全ての処方された薬をかかりつけの薬局からもらっている」(57.1%)が最も多く、「かかりつけの薬局を決めているが、かかりつけの薬局以外から薬をもらう場合がある」(40.4%)を上回った。
- 年代別では、30歳代及び40歳代では、「かかりつけの薬局を決めているが、かかりつけの薬局以外から薬をもらう場合がある」が最も多く、その他の年代では「全ての処方された薬をかかりつけの薬局からもらっている」が最も多くなっている。
- 地域別では、「かかりつけの薬局を決めているが、かかりつけの薬局以外から薬をもらう場合がある」割合が、北信地域(63.2%)で最も多く、次いで上小地域(62.8%)となっている。

【① 年代別】



【② 地域別】



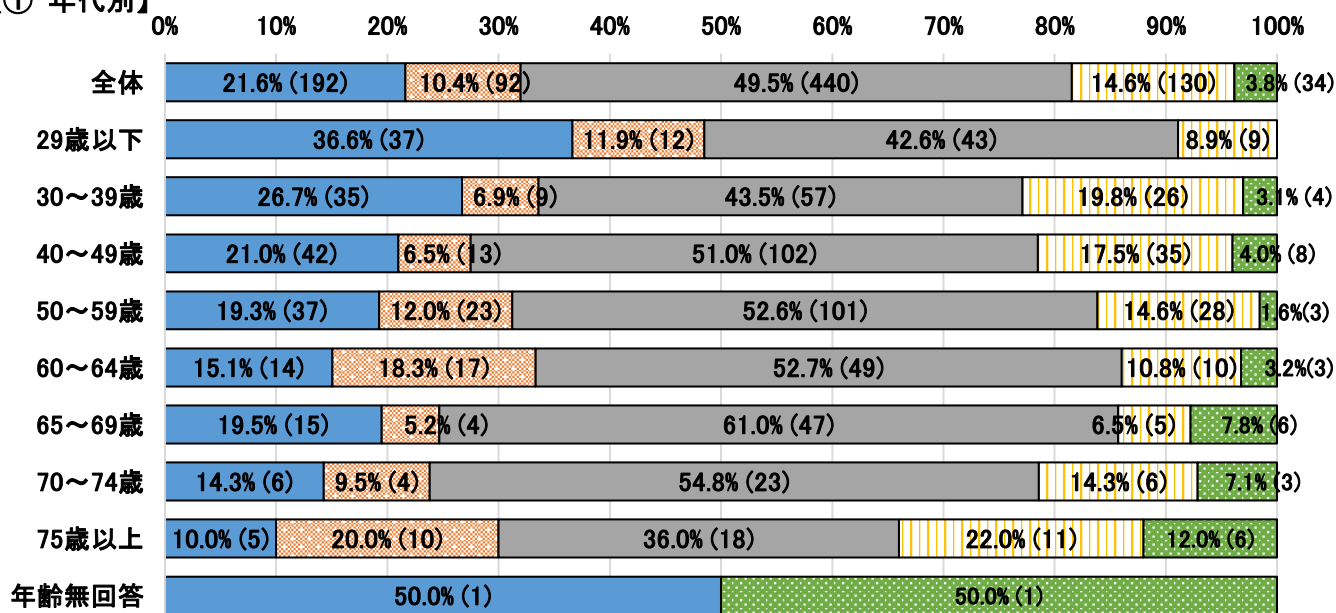
- 全ての処方された薬を「かかりつけの薬局」からもらっている
- 「かかりつけの薬局」を決めているが、「かかりつけの薬局」以外からも薬をもらう場合がある
- その他
- 無回答

問18 問16で「いいえ」と答えた方にお尋ねします。

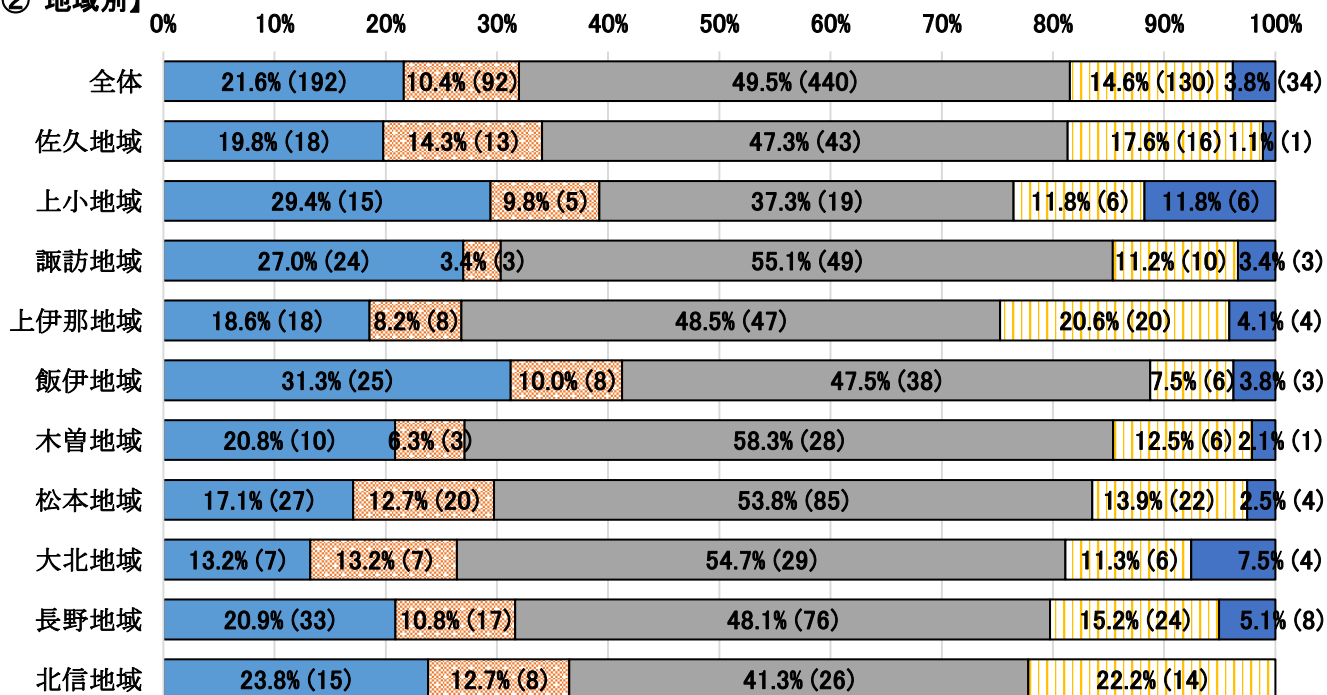
「かかりつけの薬局」を持たない理由について、お選びください。

- 問16で、かかりつけの薬局を「持たない」理由としては、「かかりつけ薬局の必要性を感じていないから」(49.5%)が最も多く、次いで「薬の服用や健康状態に不安を感じていないから」(21.6%)となっている。
- 年代別では、全ての年代において「かかりつけ薬局の必要性を感じていないから」という割合が最も多く、特に60歳代後半(61.0%)は他の年代に比べ高い。
- また、「薬の服用や健康状態に不安を感じていないから」と回答した割合は29歳以下(36.6%)が最も多く、年代が低くなるにつれ、薬の服用や健康状態に不安を感じていない割合が多くなる傾向にある。
- 地域別でも、全ての地域において「かかりつけ薬局の必要性を感じていないから」という割合が最も多くなっている。

【① 年代別】



【② 地域別】



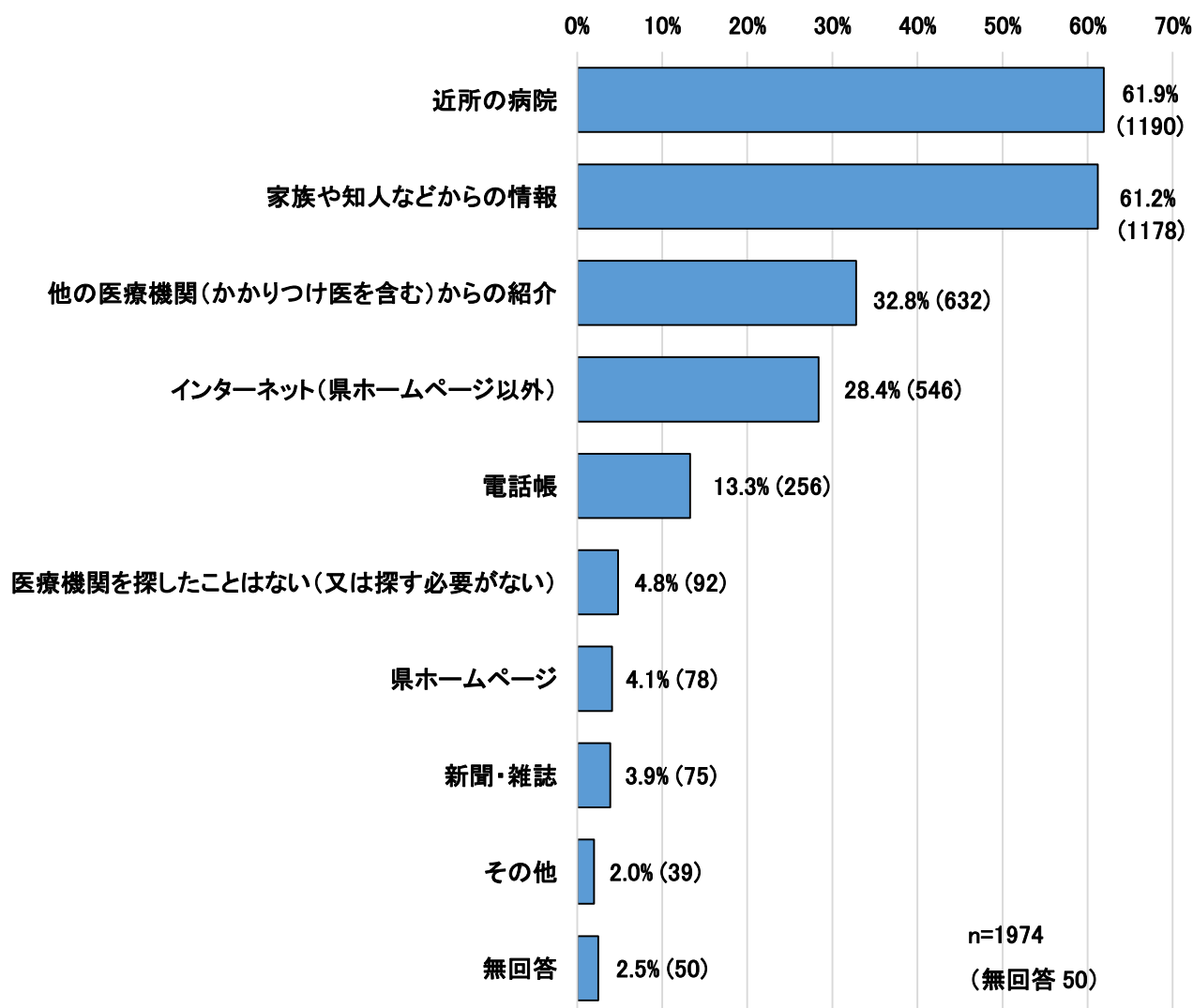
- 薬の服用や健康状態に不安を感じていないから
- 近所に適切な薬局がないから
- 「かかりつけ薬局」の必要性を感じていないから
- その他
- 無回答

n=888

6 医療機関の選択について

問19 あなたが医療機関を探す場合、どのように探していますか。(複数回答)

- 医療機関を探す方法については、「近所の病院」(61.9%)が最も多く、次いで「家族や知人からの情報」(61.2%)、「他の医療機関(かかりつけ医を含む)からの紹介」(32.8%)となった。
- 年代別では、60歳以上の年代では「近所の病院」が最も多いのに対し、30～50歳代以下の年代においては「家族や知人からの情報」が最も多くなっている。
なお、29歳以下では、「インターネット」が「家族や知人からの情報」と並び最も多く、40歳代以下の年齢層では「インターネット」を用いて医療機関を探す割合が高い傾向がある。
- 地域別では、上小地域、上伊那地域、長野地域、北信地域で「家族や知人からの情報」が最も多く、その他の地域では「近所の病院」が最も多くなっている。



年代別回答割合上位 3 項目

年代	1 位	2 位	3 位
29歳以下	インターネット（県 HP 以外）、家族や知人などからの情報(各 59.3%)		近所の病院(53.8%)
30～39歳	家族や知人などからの情報(71.3%)	近所の病院(62.5%)	インターネット(県 HP 以外)(55.4%)
40～49歳	家族や知人などからの情報(70.8%)	近所の病院(59.8%)	インターネット(県 HP 以外)(42.8%)
50～59歳	家族や知人などからの情報(60.4%)	近所の病院(58.9%)	他の医療機関(かかりつけ医を含む)からの紹介(34.7%)
60～64歳	近所の病院(67.4%)	家族や知人などからの情報(64.2%)	他の医療機関(かかりつけ医を含む)からの紹介(47.7%)
65～69歳	近所の病院(64.9%)	家族や知人などからの情報(52.7%)	他の医療機関(かかりつけ医を含む)からの紹介(44.9%)
70～74歳	近所の病院(70.7%)	家族や知人などからの情報(56.5%)	他の医療機関(かかりつけ医を含む)からの紹介(42.9%)
75歳以上	近所の病院(60.4%)	他の医療機関(かかりつけ医を含む)からの紹介(52.1%)	家族や知人などからの情報(46.5%)

地域別回答割合上位 3 項目

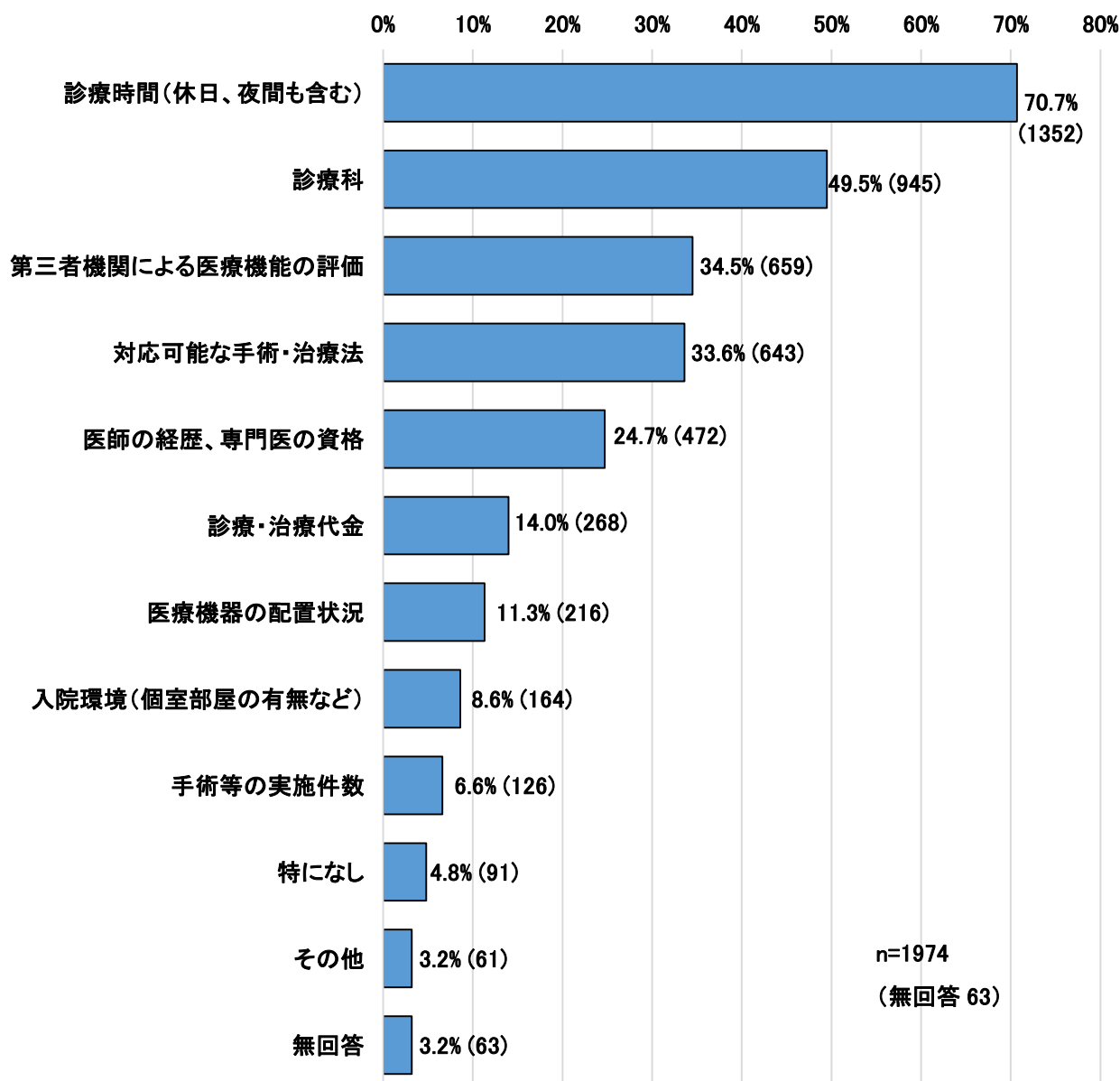
地域	1 位	2 位	3 位
佐久地域	近所の病院(62.4%)	家族や知人などからの情報(60.2%)	インターネット（県 HP 以外）(28.7%)
上小地域	家族や知人などからの情報(64.1%)	近所の病院(54.9%)	インターネット（県 HP 以外）(33.7%)
諏訪地域	近所の病院(71.2%)	家族や知人などからの情報(68.2%)	他の医療機関（かかりつけ医を含む）からの紹介(32.4%)
上伊那地域	家族や知人などからの情報(63.6%)	近所の病院(61.0%)	他の医療機関（かかりつけ医を含む）からの紹介(32.6%)
飯伊地域	近所の病院(67.5%)	家族や知人などからの情報(62.9%)	他の医療機関（かかりつけ医を含む）からの紹介(29.1%)
木曽地域	近所の病院(72.8%)	家族や知人などからの情報(55.9%)	他の医療機関（かかりつけ医を含む）からの紹介(33.1%)
松本地域	近所の病院(57.7%)	家族や知人などからの情報(57.4%)	インターネット（県 HP 以外）(33.7%)
大北地域	近所の病院(68.3%)	家族や知人などからの情報(50.0%)	他の医療機関（かかりつけ医を含む）からの紹介(34.9%)
長野地域	家族や知人などからの情報(64.0%)	近所の病院(57.3%)	他の医療機関（かかりつけ医を含む）からの紹介(33.8%)
北信地域	家族や知人などからの情報(61.3%)	近所の病院(57.7%)	他の医療機関（かかりつけ医を含む）からの紹介(40.9%)

問20 あなたが医療機関を選ぶ時に、どんな情報があればいいと思いますか。(複数回答)

○医療機関を選ぶ時に必要だと思う情報については、「診療時間(休日、夜間も含む)」(70.7%)が最も多く、次いで「診療科」(49.5%)、「第三者機関による医療機能の調査」(34.5%)となっている。

○年代別では、すべての年代で「診療時間(休日、夜間も含む)」が最も多くなっているが、2位は65歳より低い年代では「診療科」、60歳代後半が「第三者機関による医療機能の評価」、70歳代以上では「対応可能な手術・治療法」となっている。

○地域別では、すべての地域で「診療時間(休日、夜間も含む)」が最も多く、次いで「診療科」となっている。



年代別回答割合上位 3 項目

年代	1 位	2 位	3 位
29歳以下	診療時間(休日、夜間も含む)(87.6%)	診療科(50.3%)	対応可能な手術・治療法(32.4%)
30～39歳	診療時間(休日、夜間も含む)(82.4%)	診療科(58.0%)	第三者機関による医療機能の評価(35.3%)
40～49歳	診療時間(休日、夜間も含む)(81.9%)	診療科(55.6%)	対応可能な手術・治療法(32.2%)
50～59歳	診療時間(休日、夜間も含む)(71.9%)	診療科(53.5%)	第三者機関による医療機能の評価(40.8%)
60～64歳	診療時間(休日、夜間も含む)(62.3%)	診療科(51.8%)	第三者機関による医療機能の評価(37.3%)
65～69歳	診療時間(休日、夜間も含む)(60.7%)	第三者機関による医療機能の評価(40.3%)	診療科(38.8%)
70～74歳	診療時間(休日、夜間も含む)(54.5%)	対応可能な手術・治療法(49.0%)	診療科(44.1%)
75歳以上	診療時間(休日、夜間も含む)(55.9%)	対応可能な手術・治療法(36.2%)	診療科(33.8%)

地域別回答割合上位 3 項目

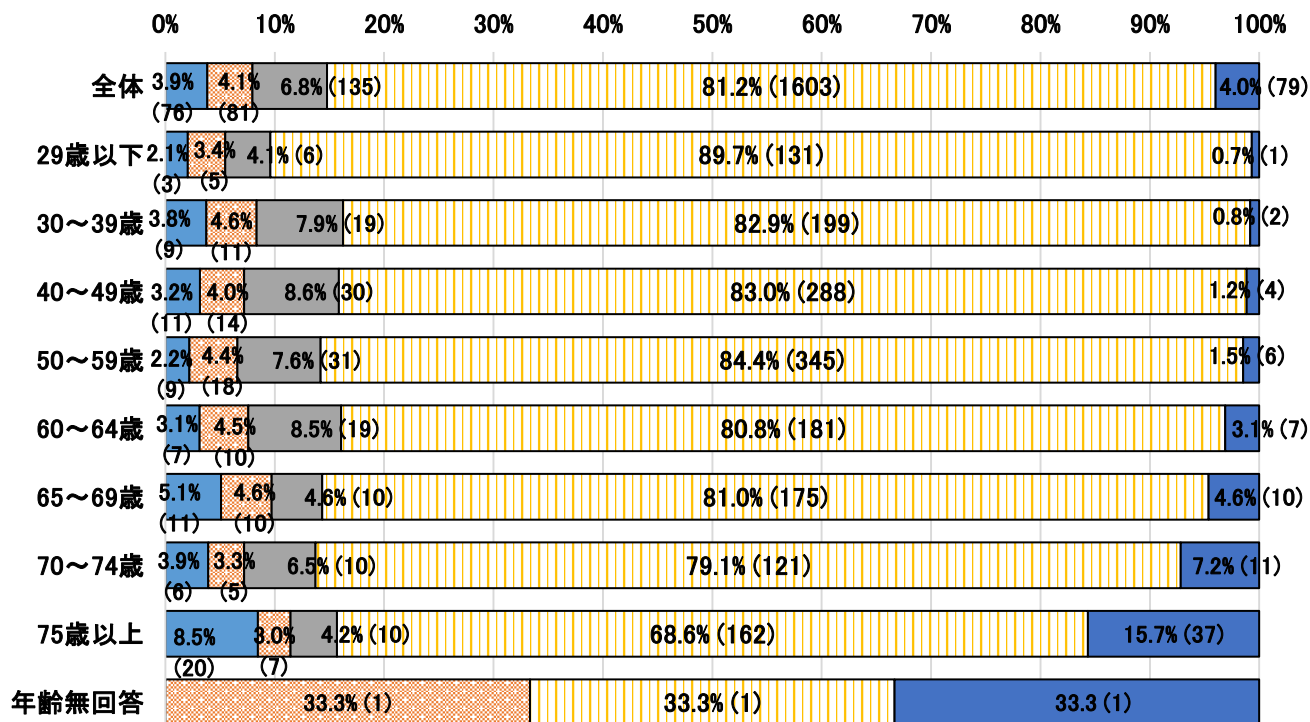
地域	1 位	2 位	3 位
佐久地域	診療時間（休日、夜間も含む）(75.7%)	診療科(54.7%)	対応可能な手術・治療法、第三者機関による医療機能の評価(各 33.1%)
上小地域	診療時間（休日、夜間も含む）(73.0%)	診療科(50.8%)	対応可能な手術・治療法(39.5%)
諏訪地域	診療時間（休日、夜間も含む）(62.9%)	診療科(49.1%)	第三者機関による医療機能の評価(39.5%)
上伊那地域	診療時間（休日、夜間も含む）(70.4%)	診療科(44.6%)	対応可能な手術・治療法(37.1%)
飯伊地域	診療時間（休日、夜間も含む）(77.0%)	診療科(48.0%)	対応可能な手術・治療法(30.9%)
木曽地域	診療時間（休日、夜間も含む）(60.2%)	診療科(47.4%)	対応可能な手術・治療法(38.3%)
松本地域	診療時間（休日、夜間も含む）(76.6%)	診療科(57.7%)	第三者機関による医療機能の評価(32.9%)
大北地域	診療時間（休日、夜間も含む）(72.2%)	診療科(42.1%)	第三者機関による医療機能の評価(33.3%)
長野地域	診療時間（休日、夜間も含む）(67.7%)	診療科(47.9%)	第三者機関による医療機能の評価(36.8%)
北信地域	診療時間（休日、夜間も含む）(69.1%)	診療科(44.9%)	第三者機関による医療機能の評価(34.6%)

7 「ながの医療情報 Net」「休日夜間医療（NHK総合テレビデータ放送）」について

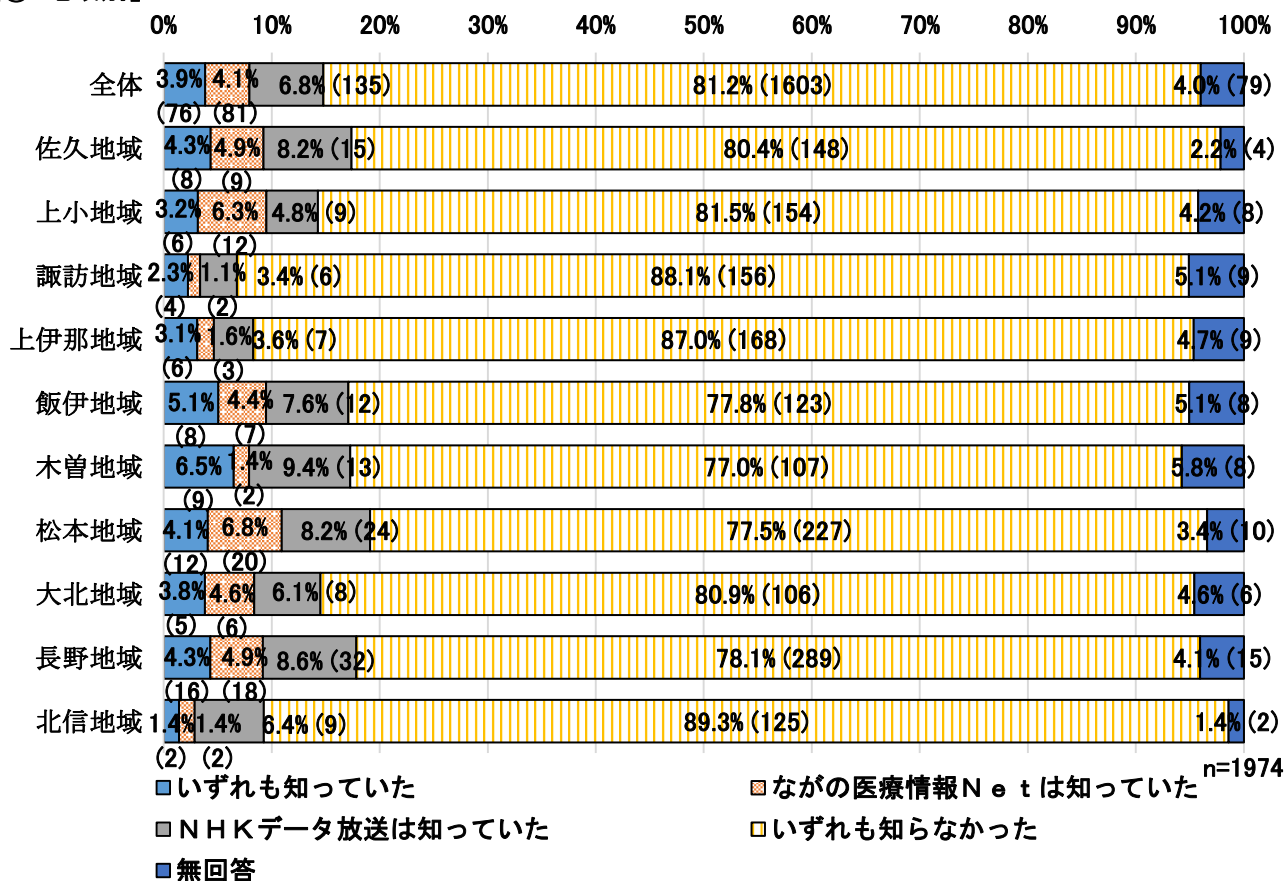
問 21 医療機関の情報や休日・夜間の緊急医の案内などを提供しているインターネットサイト「ながの医療情報 Net」（<http://www.qq.pref.nagano.lg.jp/>）や NHK 総合テレビのデータ放送で提供している「休日夜間医療」をご存知ですか。

○ながの医療情報 Net 及び NHK データ放送の認知度については、全体で「いずれも知らなかった」が 81.2% と、「いずれも知っていた」(3.9%)、「ながの医療情報 Net は知っていた」(4.1%)、「NHK データ放送は知っていた」(6.8%) を大きく上回っており、認知度が低い。

【① 年代別】



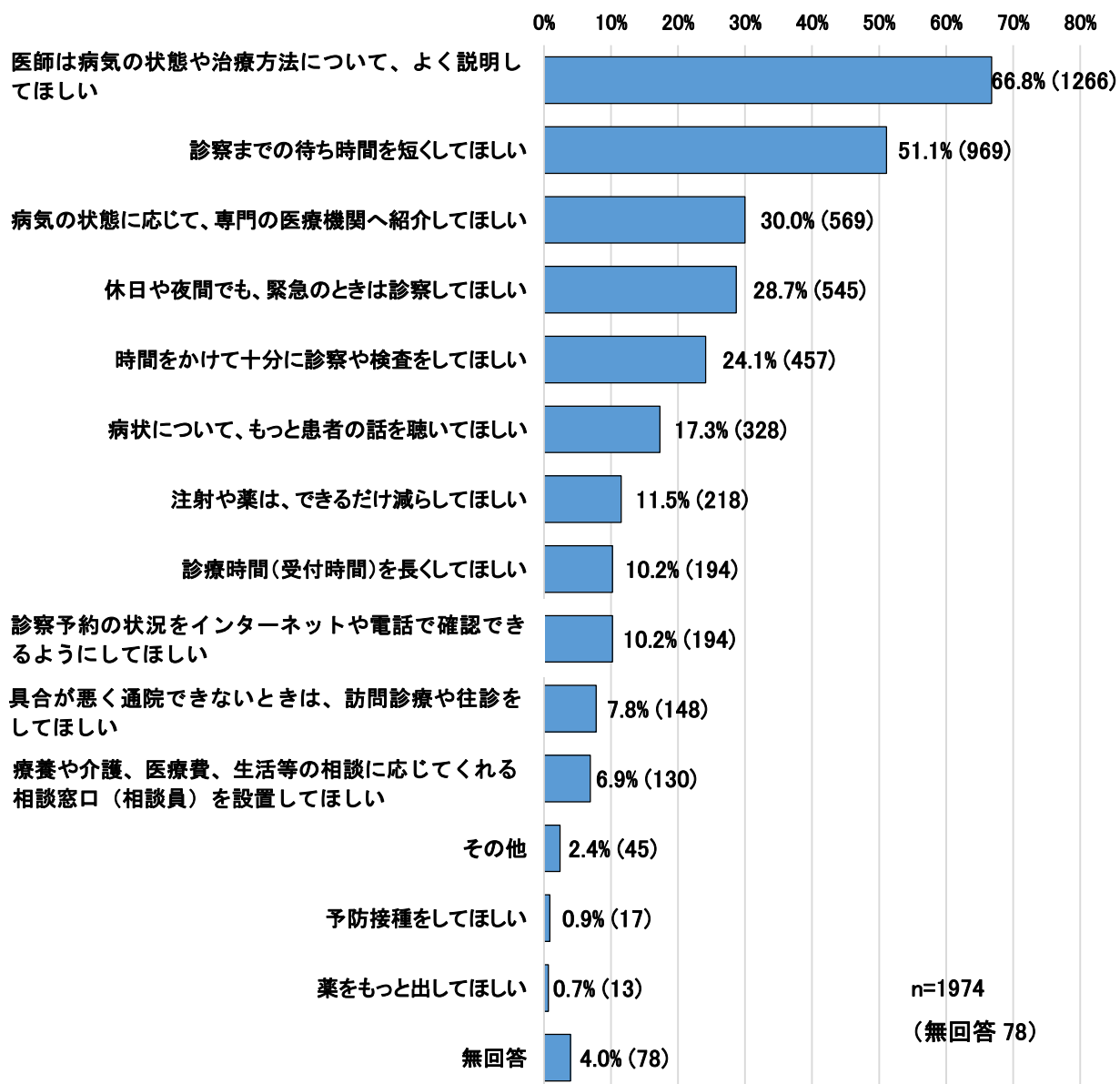
【② 地域別】



8 医療機関への要望について

問22 医療機関での病気の診察や治療に関して、どのようなことを望みますか。(複数回答)

- 医療機関への要望については、「医師は病気の状態や治療方法について、よく説明してほしい」(66.8%)が最も多く、次いで「診察までの待ち時間を短くしてほしい」(51.1%)、「病気の状態に応じて、専門の医療機関へ紹介してほしい」(30.0%)となっている。
- 年代及び地域別では、全ての年代及び地域で「医師は病気の状態や治療方法について、よく説明してほしい」が全ての地域で最も多く、次いで「診察までの待ち時間を短くしてほしい」となっている。



年代別回答割合上位3項目

年代	1 位	2 位	3 位
29歳以下	医師は病気の状態や治療方法について、よく説明してほしい(68.3%)	診察までの待ち時間を短くしてほしい(49.0%)	休日や夜間でも、緊急のときは診察してほしい(33.1%)
30～39歳	医師は病気の状態や治療方法について、よく説明してほしい、 診察までの待ち時間を短くしてほしい(各 63.6%)		休日や夜間でも、緊急のときは診察してほしい(28.8%)
40～49歳	医師は病気の状態や治療方法について、よく説明してほしい(69.9%)	診察までの待ち時間を短くしてほしい(52.5%)	休日や夜間でも、緊急のときは診察してほしい(27.1%)
50～59歳	医師は病気の状態や治療方法について、よく説明してほしい(68.7%)	診察までの待ち時間を短くしてほしい(58.1%)	病気の状態に応じて、専門の医療機関へ紹介してほしい(29.5%)
60～64歳	医師は病気の状態や治療方法について、よく説明してほしい(67.4%)	診察までの待ち時間を短くしてほしい(45.9%)	病気の状態に応じて、専門の医療機関へ紹介してほしい(38.1%)
65～69歳	医師は病気の状態や治療方法について、よく説明してほしい(64.2%)	診察までの待ち時間を短くしてほしい(51.0%)	病気の状態に応じて、専門の医療機関へ紹介してほしい(35.8%)
70～74歳	医師は病気の状態や治療方法について、よく説明してほしい(71.7%)	診察までの待ち時間を短くしてほしい(34.8%)	病気の状態に応じて、専門の医療機関へ紹介してほしい(34.1%)
75歳以上	医師は病気の状態や治療方法について、よく説明してほしい(59.7%)	診察までの待ち時間を短くしてほしい(39.3%)	病気の状態に応じて、専門の医療機関へ紹介してほしい(33.6%)

地域別回答割合上位3項目

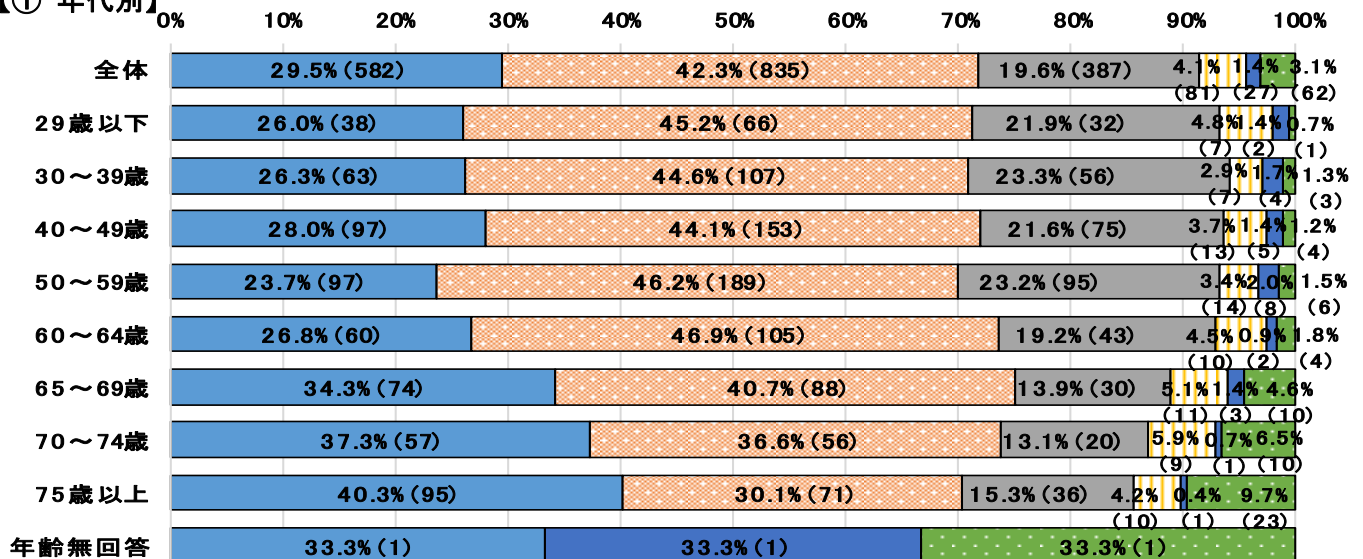
地域	1 位	2 位	3 位
佐久地域	医師は病気の状態や治療方法について、よく説明してほしい(76.8%)	診察までの待ち時間を短くしてほしい(50.3%)	休日や夜間でも、緊急のときは診察してほしい(28.2%)
上小地域	医師は病気の状態や治療方法について、よく説明してほしい(66.1%)	診察までの待ち時間を短くしてほしい(50.5%)	病気の状態に応じて、専門の医療機関へ紹介してほしい(37.6%)
諏訪地域	医師は病気の状態や治療方法について、よく説明してほしい(67.1%)	診察までの待ち時間を短くしてほしい(57.5%)	病気の状態に応じて、専門の医療機関へ紹介してほしい(25.7%)
上伊那地域	医師は病気の状態や治療方法について、よく説明してほしい(65.6%)	診察までの待ち時間を短くしてほしい(45.6%)	病気の状態に応じて、専門の医療機関へ紹介してほしい(27.8%)
飯伊地域	医師は病気の状態や治療方法について、よく説明してほしい(62.4%)	診察までの待ち時間を短くしてほしい(53.0%)	病気の状態に応じて、専門の医療機関へ紹介してほしい(32.2%)
木曽地域	医師は病気の状態や治療方法について、よく説明してほしい(58.5%)	診察までの待ち時間を短くしてほしい(50.4%)	休日や夜間でも、緊急のときは診察してほしい(35.6%)
松本地域	医師は病気の状態や治療方法について、よく説明してほしい(66.6%)	診察までの待ち時間を短くしてほしい(50.9%)	病気の状態に応じて、専門の医療機関へ紹介してほしい(32.4%)
大北地域	医師は病気の状態や治療方法について、よく説明してほしい(67.8%)	診察までの待ち時間を短くしてほしい(53.4%)	休日や夜間でも、緊急のときは診察してほしい(33.1%)
長野地域	医師は病気の状態や治療方法について、よく説明してほしい(71.2%)	診察までの待ち時間を短くしてほしい(51.1%)	病気の状態に応じて、専門の医療機関へ紹介してほしい(28.5%)
北信地域	医師は病気の状態や治療方法について、よく説明してほしい(56.8%)	診察までの待ち時間を短くしてほしい(49.6%)	病気の状態に応じて、専門の医療機関へ紹介してほしい(35.3%)

9 医療機関の役割分担について

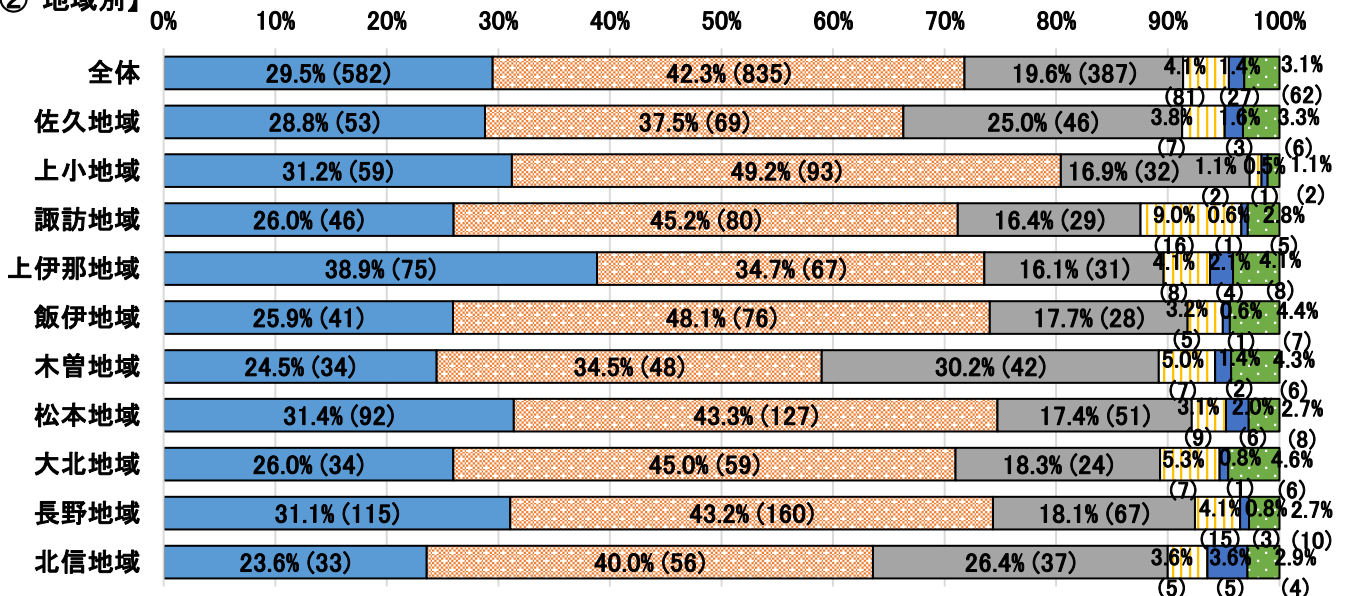
問23 「比較的軽い病気やけがは、患者の近くの診療所・医院が治療を受け持ち、比較的大きな病院は、病状が進んだ患者の治療や難しい病気の治療に専念すべきである」という考えについて、どう思われますか。

- 地域の医療機関の役割分担については、「大いに賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせて71.8%となっており、「全く反対」「どちらかといえば反対」を合わせた5.5%を大きく上回っている。
- 年代別でもほぼ同様の結果となっているが、「大いに賛成」をみると、高齢層になるにつれ割合が高くなっている。
- 地域別では、上小地域では「大いに賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した割合の合計が80.4%と高く、木曽地域(59.0%)や北信地域(63.6%)とは2割程度差がある。

【① 年代別】

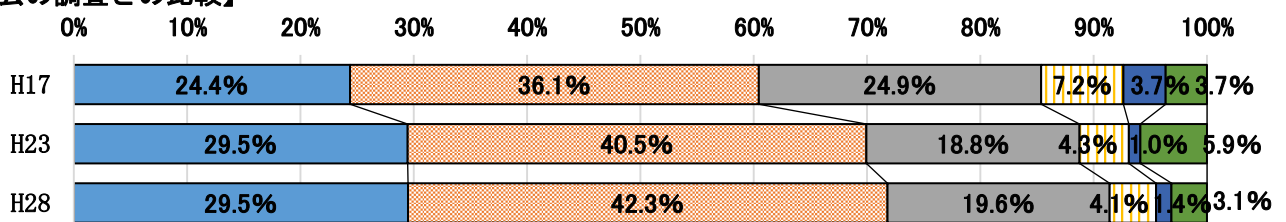


【② 地域別】



n=1974

【③ 過去の調査との比較】



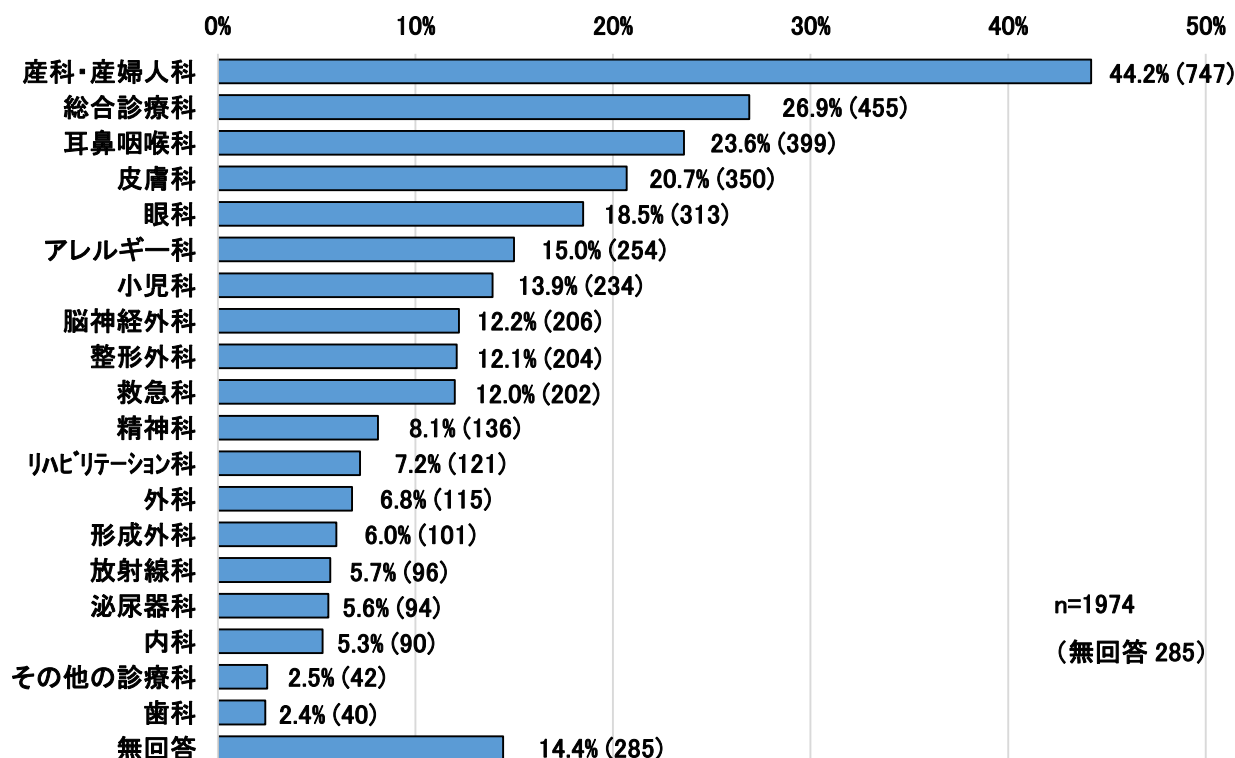
■大いに賛成 ■どちらかといえば賛成 ■どちらともいえない ■どちらかといえば反対 ■全く反対 ■無回答

10 地域に不足している診療科について

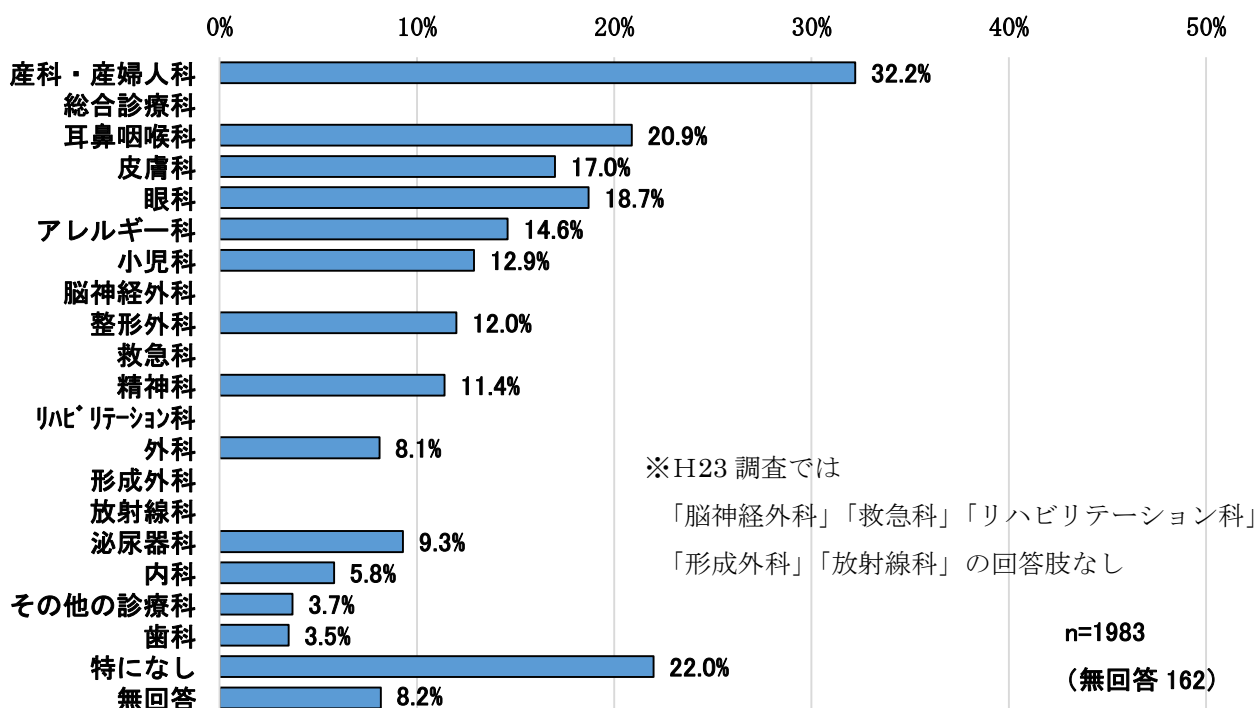
問24 あなたのお住まいの地域で、受診する医療機関が無い、あるいは不足していると感じている診療科を、3つまでお選びください。(複数回答)

- 地域に不足している診療科については、「産科・産婦人科」(44.2%)が最も多く、次いで「総合診療科」(26.9%)、「耳鼻咽喉科」(23.6%)となっている。
- 年代別では、75歳以上を除くすべての年代で「産科・産婦人科」が最も多く、75歳以上では「総合診療科」が最も多くなっている。
特に30歳代では、「産科・産婦人科」や「小児科」が他の年代と比べ高いことから、子育て世代において、不足感を多く感じていることがうかがえる。
- 地域別では、全ての地域で「産科・産婦人科」が最も多くなっているが、飯伊地域(78.9%)と諏訪地域(28.3%)との間には約50%の差があり、地域によって不足していると感じている度合いに差があることがうかがえる。

【平成28年度】



【平成23年度】



年代別回答割合上位3項目

年代	1 位	2 位	3 位
29歳以下	産科・産婦人科(45.6%)	耳鼻咽喉科(26.4%)	皮膚科(19.2%)
30～39歳	産科・産婦人科(53.4%)	小児科(27.9%)	耳鼻咽喉科(25.6%)
40～49歳	産科・産婦人科(42.0%)	皮膚科(27.3%)	耳鼻咽喉科(24.1%)
50～59歳	産科・産婦人科(47.5%)	総合診療科(31.6%)	耳鼻咽喉科(23.6%)
60～64歳	産科・産婦人科(48.7%)	総合診療科(32.8%)	皮膚科(20.1%)
65～69歳	産科・産婦人科(44.0%)	総合診療科(31.0%)	耳鼻咽喉科(24.4%)
70～74歳	産科・産婦人科(36.1%)	総合診療科(28.6%)	耳鼻咽喉科(27.7%)
75歳以上	総合診療科(38.3%)	産科・産婦人科(30.3%)	眼科(22.9%)

地域別回答割合上位3項目

地域	1 位	2 位	3 位
佐久地域	産科・産婦人科(44.9%)	眼科(37.3%)	耳鼻咽喉科(28.5%)
上小地域	産科・産婦人科(47.0%)	総合診療科(31.0%)	眼科(20.2%)
諏訪地域	産科・産婦人科、耳鼻咽喉科(各 28.3%)		皮膚科(27.0%)
上伊那地域	産科・産婦人科(45.5%)	総合診療科(31.7%)	皮膚科(26.9%)
飯伊地域	産科・産婦人科(78.9%)	総合診療科(27.5%)	小児科(18.3%)
木曽地域	産科・産婦人科、総合診療科(各 34.5%)		耳鼻咽喉科(31.1%)
松本地域	産科・産婦人科(41.6%)	総合診療科(33.9%)	皮膚科(25.7%)
大北地域	産科・産婦人科(67.5%)	耳鼻咽喉科(27.2%)	総合診療科(23.7%)
長野地域	産科・産婦人科(28.6%)	耳鼻咽喉科、小児科(各 24.7%)	
北信地域	産科・産婦人科(49.2%)	耳鼻咽喉科(36.7%)	総合診療科(26.7%)

11 人生の最終段階における医療について

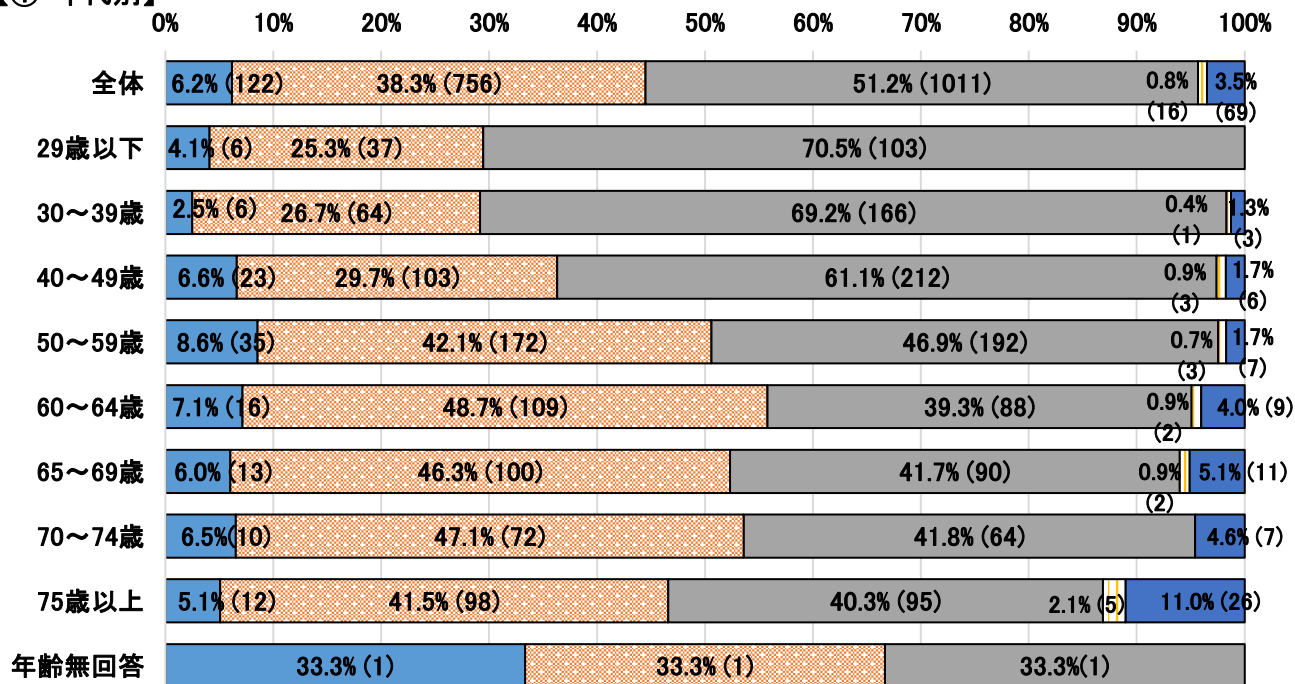
問25 あなたは、ご自身やご家族の死が近い（病気が可能な限りの治療によっても回復の見込みがなく、近い将来の死が避けられない）場合に受けたい医療や受けたくない医療について、ご家族とどのくらい話し合ったことがありますか。

○人生の最終段階における医療について、家族と「話し合ったことがある」「一応話し合ったことはある」を合わせて 44.5%であり、「話し合ったことはない」(51.2%)を下回った。

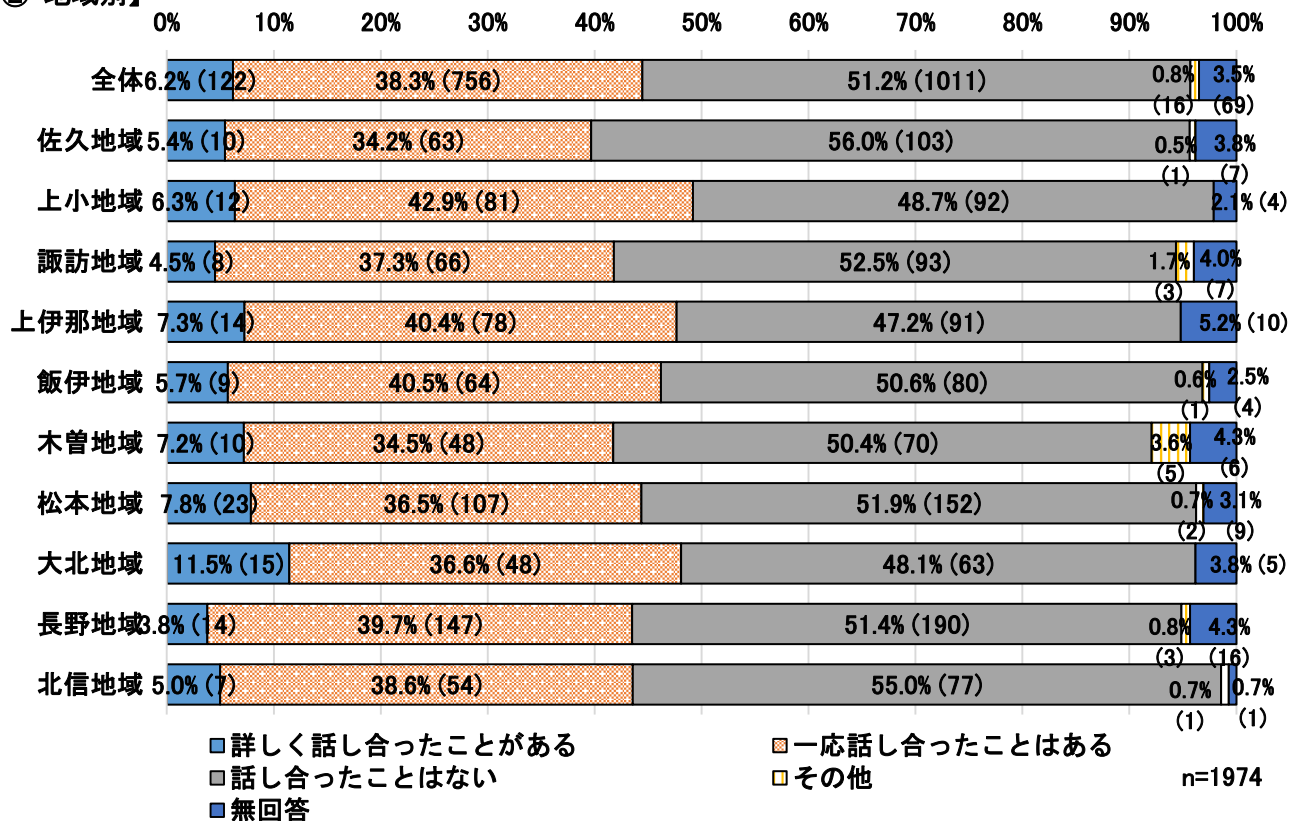
○年代別では、50 歳代以上で「詳しく話し合ったことがある」と「一応話し合ったことがある」が「話し合ったことはない」を上回っている。

○地域別では、上小地域と上伊那地域で「詳しく話し合ったことがある」と「一応話し合ったことがある」が「話し合ったことはない」を上回っているが、地域間に大きな差は見られない。

【① 年代別】



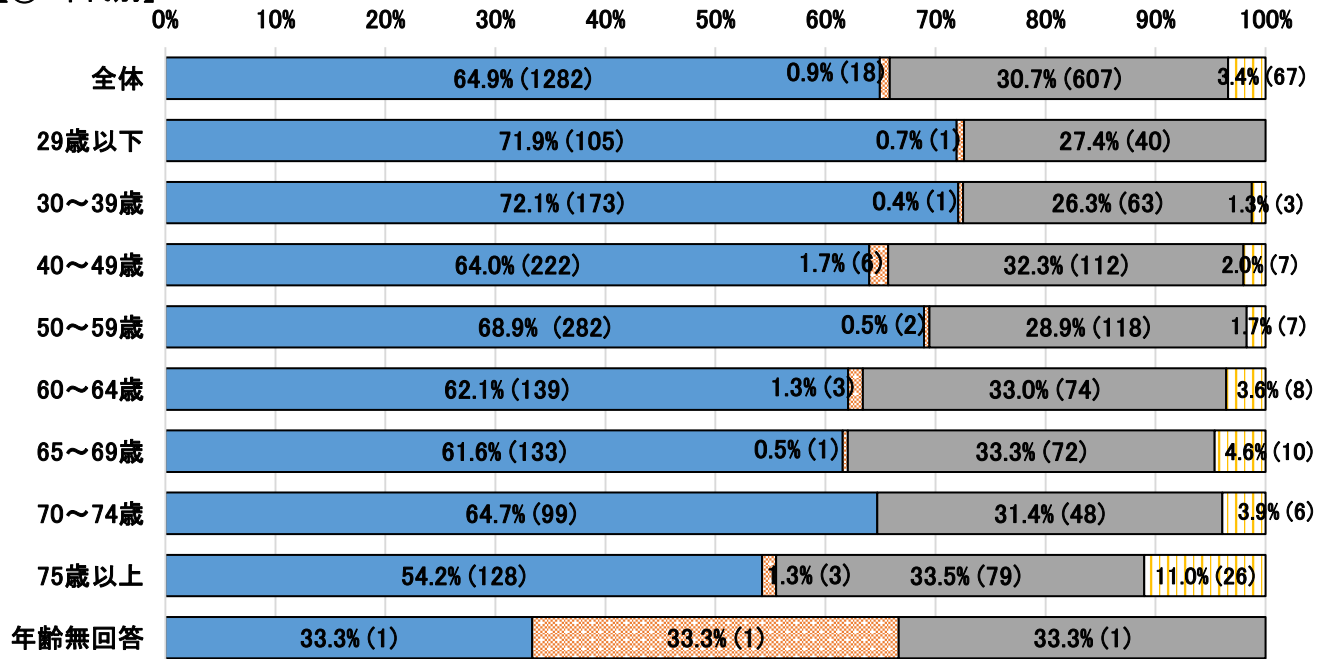
【② 地域別】



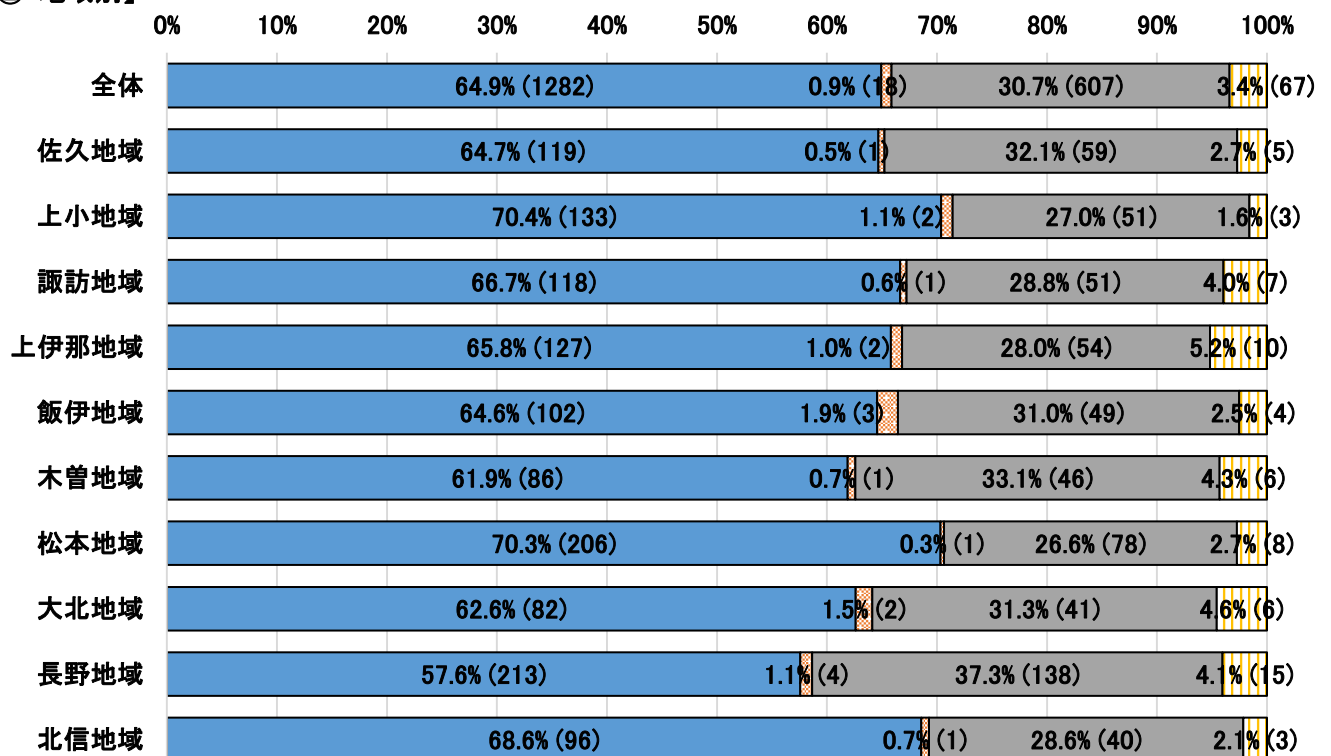
問 26 あなたは、自分で判断できなくなった場合に備えて、どのような治療を受けたいか、あるいは受けたくないかなどを記載した書面をあらかじめ作成しておくことについてどう思われますか。

- 人生の最終段階において受けたい医療等を記載した書面をあらかじめ作成しておくことについて「賛成である」(64.9%)が「反対である」(0.9%)を大きく上回っているが「わからない」との回答も30.7%あった。
- 年代別では、29歳以下、30歳代で「賛成である」が7割を超えている一方、「わからない」との回答は60歳代以上では3割を超えている。
- 地域別では、上小地域及び松本地域で「賛成である」が7割を超えている一方、多くの地域で「わからない」との回答が3割程度となっている。

【① 年代別】



【② 地域別】



n=1974

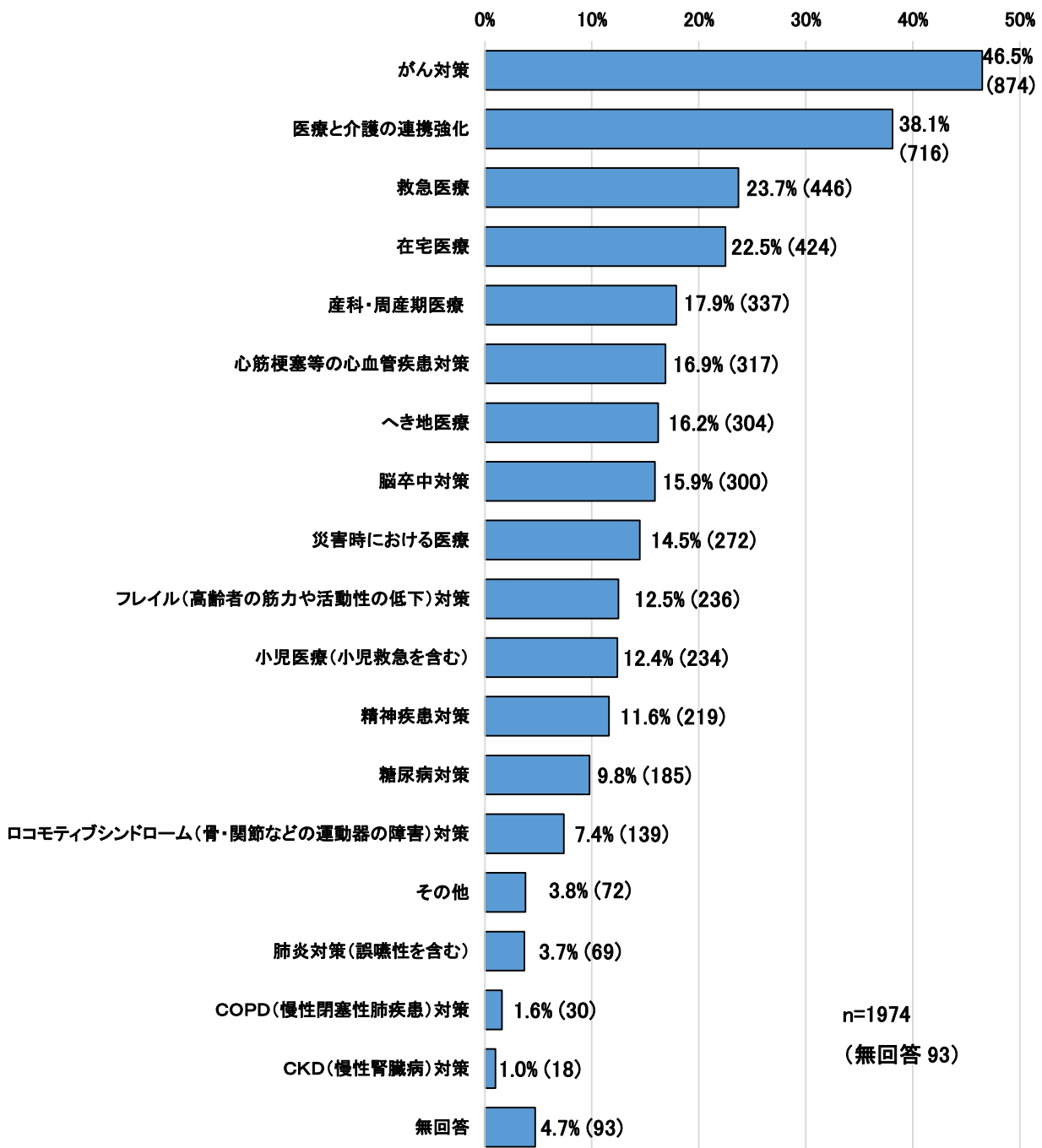
■ 賛成である ■ 反対である ■ わからない ■ 無回答

12 医療行政について

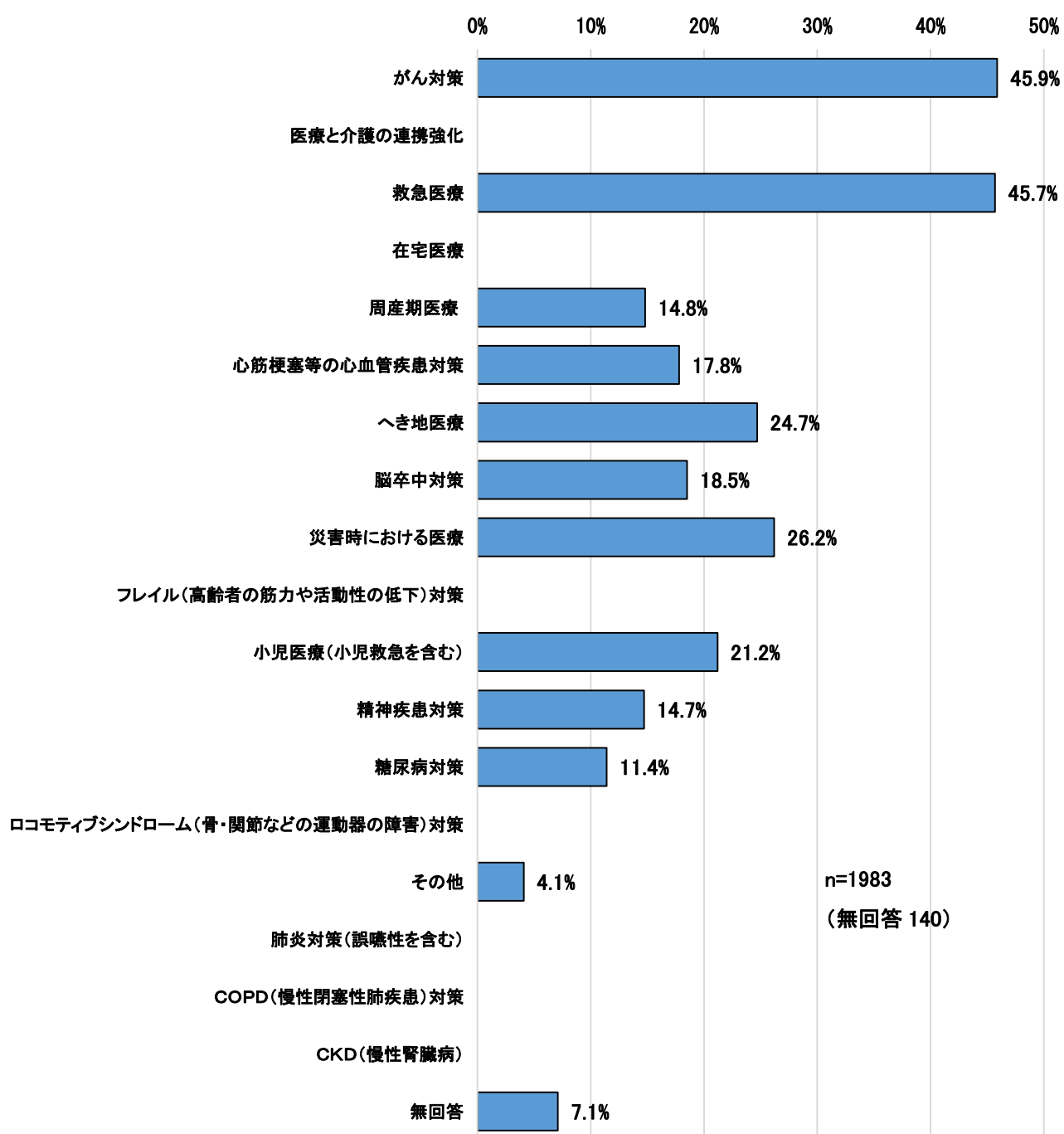
問27 今後、医療行政は、どの分野について重点をおく必要があると感じていますか。
(複数回答)

- 今後、重点をおくべき医療行政の分野として、「がん対策」(46.5%)が最も多く、次いで「医療と介護の連携強化」(38.1%)、「救急医療」(23.7%)となっている。
- 年代別では、各年代で「がん対策」と回答した割合が最も多く、次いで「医療と介護の連携強化」となっているが、30歳代では、「小児医療」や「産科・周産期医療」の割合が高く、子育て世代からのニーズが高いことが伺える。
- 地域別では、木曽地域と松本地域を除く地域では「がん対策」と回答した割合が最も多かったが、木曽地域では「へき地医療」、松本地域では「医療と介護の連携強化」の割合が最も高くなっている。

【平成28年度】



【平成23年度】



※H23 調査では

「医療と介護の連携強化」「在宅医療」「フレイル対策」「ロコモティブシンドローム対策」「肺炎対策」
「COPD対策」「CKD対策」の回答肢なし

年代別回答割合上位3項目

年代	1 位	2 位	3 位
29歳以下	がん対策(50.3%)	医療と介護の連携強化(31.5%)	産科・周産期医療 (28.7%)
30～39歳	がん対策(43.3%)	小児医療(小児救急を含む)(37.3%)	産科・周産期医療 (36.5%)
40～49歳	がん対策(41.5%)	医療と介護の連携強化(35.1%)	救急医療(28.9%)
50～59歳	がん対策(45.1%)	医療と介護の連携強化(43.1%)	救急医療(23.2%)
60～64歳	がん対策(51.2%)	医療と介護の連携強化(39.9%)	救急医療(27.2%)
65～69歳	がん対策(51.0%)	医療と介護の連携強化(38.0%)	救急医療(25.0%)
70～74歳	がん対策(48.6%)	医療と介護の連携強化(41.0%)	心筋梗塞等の心血管疾患対策(25.7%)
75歳以上	がん対策(47.1%)	医療と介護の連携強化(44.3%)	心筋梗塞等の心血管疾患対策(29.4%)

地域別回答割合上位3項目

地域	1 位	2 位	3 位
佐久地域	がん対策(48.9%)	医療と介護の連携強化(35.4%)	救急医療(25.8%)
上小地域	がん対策(40.7%)	医療と介護の連携強化(35.7%)	救急医療(30.2%)
諏訪地域	がん対策(48.0%)	医療と介護の連携強化(46.2%)	在宅医療(24.6%)
上伊那地域	がん対策(46.4%)	医療と介護の連携強化(35.2%)	在宅医療(25.1%)
飯伊地域	がん対策(50.7%)	産科・周産期医療 (34.7%)	医療と介護の連携強化(29.3%)
木曽地域	へき地医療(48.9%)	医療と介護の連携強化(45.1%)	がん対策(38.3%)
松本地域	医療と介護の連携強化(41.0%)	がん対策(39.6%)	救急医療(23.4%)
大北地域	がん対策(46.3%)	医療と介護の連携強化(36.6%)	救急医療、産科・周産期医療 (各 23.6%)
長野地域	がん対策(52.5%)	医療と介護の連携強化(39.3%)	在宅医療(24.0%)
北信地域	がん対策(51.1%)	医療と介護の連携強化(33.1%)	救急医療(24.8%)

Ⅲ 自由回答

問4 あなたが、もし体調が少し悪くて医師に診てもらいたいときどうしますか。

- ・かかりつけの病院に行く。
- ・症状によって変えている。

問8 問7で診療時間外に発病したことが「ある」と回答した方にお尋ねします。

その時どのように対応されましたか。

- ・診察時間まで我慢した。
- ・かかりつけの病院に電話した。
- ・消防署で紹介してもらった。

問12 かかりつけの医師を持たないのはどのような理由からですか。

- ・定期的に行く病院があるが担当医師は常勤ではないため。
- ・現在の場所に住んでから、まだ間もないため。
- ・かかりつけにしていた医師が引退したため。

問15 かかりつけの歯科医師を持たないのはどのような理由からですか。

- ・仕事の都合に合わせ、予約の取りやすい歯科医院に行っているため。
- ・現在の場所に住んでから、まだ間もないため。
- ・かかりつけにしていた歯科医師が引退したため。

問17 かかりつけの薬局においてどのように薬を処方してもらっていますか。

- ・受診する病院ごとに、処方する薬局が決まっているため、かかりつけ薬局が複数ある。

問18 かかりつけの薬局を持たないのはどのような理由からですか。

- ・受診した医療機関内や医療機関の近くの薬局で処方してもらうから。
- ・病気や処方される薬によって、薬局を使い分けているから。
- ・配置薬を利用しているから。

問19 あなたが医療機関を探す場合、どのように探していますか。

- ・NHKのデータ放送で調べる。
- ・薬局で聞く。

問20 あなたが医療機関を選ぶ時に、どんな情報があればいいと思いますか。

- ・待ち時間の有無、混雑状況。
- ・評判、口コミなど実際に診察や治療を受けた人からの情報。
- ・治療や手術等の実績。

問22 医療機関での病気の診察や治療に関して、どのようなことを望みますか。

- ・平日の診療時間を長くしたり、週末も診察をしてほしい。
- ・会計までの時間を短縮してほしい。

問24 お住まいの地域で、受診する医療機関が無い、あるいは不足していると感じている
診療科

- ・心臓血管外科
- ・神経内科
- ・心療内科
- ・肛門科

問25 人生の最終段階において、受たい医療を家族と話し合ったことがありますか。

- ・日常会話や雑談程度で話したことはあるが、話し合ったりはしていない。
- ・一人暮らしで話す相手がいない。

問27 今後、医療行政は、どの分野について重点をおく必要があると感じていますか。

- ・認知症対策
- ・発達障がい児へのケア
- ・緩和ケア・ホスピス
- ・不妊治療
- ・病気の予防や健康づくり
- ・人生の最終段階(終末期)の医療

医療に関して、日頃感じていることや意見

【医療機関について】

- ・会計時や待合室への呼び出しの際は、フルネームでなく番号で呼んでほしい。
- ・医師の転勤により一年ごとに担当医が変わってしまい不安です。
- ・医療関係者が激務になっているのではないかと心配です。
- ・他の患者のウイルスや病気などがうつらないよう、待合室をもう少し改善してほしい。
- ・バリアフリー化を進めてほしい。眼科や耳鼻科は車イスで行かれる医院が少ない気がします。
- ・女性特有の病気に関する検査を気楽に受けられるような医療機関や機会が必要に思います。
- ・紹介状がなくても、大きな病院を受診できるようにしてほしい。
- ・週末(土日)も診療してほしい。学生や仕事帰り人が行きやすい時間帯にも診療してほしい。
- ・個人医院にはもっと「セカンド・オピニオン」を理解してもらいたい。

【医師について】

- ・患者の顔を余り見ないで、ひたすらコンピューターを打つ医師に不満を感じます。
- ・医者の高齢化が多く見られるが、後継者がいない状況があり、今後が心配である。
- ・患者が他の医療機関に変更したい時は、紹介状を書いてもらいたい。
- ・産科、産婦人科に女性の医師がもっといてくれると、ガン検診等に行き易くなると思う。
- ・患者への接遇を改善してほしい。精神疾患を持っている人への接し方を勉強してほしい。
- ・年を取って運転ができなくなると病院にも行けないので、往診をする医師が増えてほしい。
- ・現在かかりつけにしている医師はよく診てくれる。医師が皆そうになってほしい。

【薬について】

- ・医薬分業を進めているが、院外処方割高になるので、希望者には院内でも処方してほしい。
- ・高額な薬に変える時は、先に相談してほしい。
- ・いつまで薬を飲むのか説明してほしい。
- ・薬局にわざわざ薬をもらいに行くのが、具合が悪い時は苦痛なので、簡素化してほしい。

【待ち時間について】

- ・待ち時間が長く、診察時間はあつという間ということが多い。
- ・具合が悪い患者を長く待たせない工夫をしてほしい。
- ・予約をして予約時間に病院に行っても、そこから2時間も待たされるのはどうにかしてほしい。
- ・待ち時間を減らす予約システムを使う医療機関が増えてきましたが高齢者にも簡単にできるものがあればいいと思います。
- ・あと何人(何分)くらい待てばいいのかわかるようにしてほしい。いつ呼ばれるかわからないのでずっと待っていなければいけない。

【行政】

- ・産科、小児科が不足している事で、将来に不安を感じる。
- ・夜間、休日の小児科の担当医の数を増やしてほしい。
- ・都会に比べて専門医が少ないので多くしてほしい。
- ・車を自分で運転できない高齢者の通院や受診の手段、交通費の補助が必要と思われる。
- ・地域によって医療格差が生じない様にしてほしい。
- ・へき地と言われている地域への医療の充実
- ・在宅医療(訪問診療)を行う医師が少ないと思う。
- ・訪問看護師が少なく、24時間体制となると看護師の肉体的精神的負担が大きく定着しにくい。
- ・18歳以下の子供の無料化(窓口負担ゼロ)をしてほしい。

【その他】

- ・メンタルヘルス対策として企業等がストレスチェックを定期的に容易に行える環境作りが必要だと感じる。
- ・がん治療費が高額なので、安くして欲しい。
- ・身内が病気になった時、病院以外に専門の方に相談する手引きがほしい。